

|     | 単元の具体的な指導目標                                                                                                                                                                                                      | 指導項目・内容                                                                                                                                          | 領域<br>読書読解 |   |   | 評価規準                                                                                                                                       | 知 | 思 | 態  | 配<br>時<br>数 |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|---|---|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|----|-------------|
| 1学期 | A 「論理」についての筆者の考えを読み取る。<br>【知識及び技能】<br>論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために、語感を磨き語彙を豊かにする。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>文章の内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握する。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>論理についての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、論理的に考える力を伸ばす。       | 「『論理的な人』とはどういう人か」<br><br>・本文全体の構成や展開を把握する。<br>・文中の接続表現を意識して読む。<br>・具体例から読み取れることを整理する。<br>・問題提起に対する筆者の結論を読み取る。                                    | ○          | ○ | ○ | ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために、語感を磨き語彙を豊かにしている。<br>・文章の内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握している。<br>・論理についての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、論理的に考える力を伸ばしている。 | ○ | ○ | ○  | 10          |
|     | 定期考査                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                  |            |   |   |                                                                                                                                            | ○ | ○ |    | 1           |
|     | B 対比関係を意識しながら読み、論理の展開を的確にとらえる。<br>【知識及び技能】<br>対比を示す語句、接続表現に注目しながら文章を読み、論理展開をとらえる。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握する。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>デジタル地図についての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、対比の関係をとらえる。    | 「デジタル地図から見える世界」<br><br>・対比関係を押さえる。<br>・デジタル地図の特徴を読み取る。<br>・デジタル地図に依存することの危険性を理解する。<br>・本文全体の構成を整理する。                                             | ○          |   | ○ | ・対比を示す語句、接続表現に注目しながら文章を読み、論理展開をとらえている。<br>・内容や構成、論理の展開などについて叙述をもとに的確にとらえ、要旨や要点を把握している。<br>・デジタル地図についての筆者の考えを読み取ること興味をもち、対比の関係をとりあえている。     | ○ | ○ | ○  | 12          |
|     | 定期考査                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                  |            |   |   |                                                                                                                                            | ○ | ○ |    | 1           |
| 2学期 | A 主張と根拠の関係を意識して本文を読み、論理の展開をとらえる。<br>【知識及び技能】<br>主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深める。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握する。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>科学技術についての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、主張と根拠の関係をとらえる。    | 「人工の自然—科学技術時代の今を生きるために—」<br><br>・筆者の関心を読み取る。<br>・「人工の自然」という考え方を理解する。<br>・「今を生きるために」筆者が必要だと考えていることを読み取る。                                          | ○          | ○ | ○ | ・主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。<br>・内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握している。<br>・科学技術についての筆者の考えを読み取ること興味をもち、主張と根拠の関係をとりあえている。         | ○ | ○ | ○  | 12          |
|     | 定 期 考 査                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                  |            |   |   |                                                                                                                                            | ○ | ○ |    | 1           |
|     | B 具体例の働きを的確にとらえ、具体と抽象の関係について理解する。<br>【知識及び技能】<br>情報を重要度や抽象度によって階層化して整理する方法について理解を深める。<br>【思考、判断力、表現力等】<br>内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握する。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>メディアについての筆者の考えを読み取ること興味をもち、具体と抽象の関係をとらえる。 | 「記号的メディアと物理的メディア」<br><br>・「記号的メディア」と物理的メディアの関係について確認する。<br>・多様なコミュニケーションをメディアによって分類できることを理解する。<br>・「記号的メディア」と物理的メディアに関する筆者の主張（抽象）と具体例（具体）とを整理する。 |            |   | ○ | ・情報を重要度や抽象度によって階層化して整理する方法について理解を深めている。<br>・内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握している。<br>・メディアについての筆者の考えを読み取ること興味をもち、具体と抽象の関係をとりあえている。     | ○ | ○ | ○  | 14          |
|     | 定 期 考 査                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                  |            |   |   |                                                                                                                                            | ○ | ○ |    | 1           |
| 3学期 | 異なる立場の文章を比べて読み、考えを深める。<br>【知識及び技能】<br>具体例の役割や根拠に注意しながら筆者の主張を読み取る。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味する。<br>【思考、判断力、表現力等】<br>情報を的確に比較・整理しながら、情報化社会についての筆者の主張を読み取る。                       | 「情報化と紙の本のゆくえ」<br><br>・情報化、メディアとの付き合い方について考える。<br>・情報化社会における活字文化に対する筆者の考えをとらえる。<br>・情報化と「紙の本」に対する筆者の考えを理解する。<br>・「古いメディア」の役割とそのゆくえについて自分の考えをもつ。   | ○          | ○ | ○ | ・具体例の役割や根拠に注意しながら筆者の主張を読み取っている。<br>・主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味している。<br>・情報を的確に比較・整理しながら、情報化社会についての筆者の主張を読み取っている。               | ○ | ○ | ○  | 17          |
|     | 定期考査                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                  |            |   |   |                                                                                                                                            | ○ | ○ |    | 1           |
|     |                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                  |            |   |   |                                                                                                                                            |   |   | 合計 | 70          |



年間授業計画  
都立拝島高等学校  
教科 地理歴史  
対象学年組：第2学年

令和7年度 2学年用  
科目  
1組～7組

教科：地理歴史  
歴史総合

科目：歴史総合  
単位数：3単位

教科担当者：

（歴史総合α1、2、3、4、5、6組： 青木 7組： 田中）

（歴史総合β1、2、3、4、5、6、7組： 古川）

使用教科書：

『現代の歴史総合 みる・読みとく・考える』（山川出版社）

教科 地理歴史の目標：

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することをめざす。

【知識及び技能】

近現代の歴史の変化に関わる諸事情について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成にかかわる近現代の歴史を理解する。  
また、資料やデータから歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

近現代の歴史の変化に関わる諸事情について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追及、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 歴史総合の目標：

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することをめざす。

| 【知識及び技能】                                                                                                                       | 【思考力、判断力、表現力等】                                                                                                                                              | 【学びに向かう力、人間性等】                                                                                                                                  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 知識：近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそのなかの日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。<br>技能：諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。 | 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 | 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追及、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 |

|     | 単元          | 内容                    | 単元の具体的な指導目標                                                                                                                                                                                                 | 評価の規準                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                  | 知 | 思 | 態 | 配当時数 |
|-----|-------------|-----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|------|
|     |             |                       |                                                                                                                                                                                                             | 知識・技能                                                                                                                                                                                                                           | 思考・判断・表現                                                                                                                                                                                                        | 主体的に学習に取り組む態度                                                                                                                                                                                    |   |   |   |      |
| 1学期 | 歴史の扉        | ①歴史と私たち 現代の私たちと旅      | ①身近な事柄が、時間的な推移や空間的な結びつきのなかで歴史と結びつきをもっていることを理解する。<br>②私たちの生活に関わる制度や習慣について分析する際に、歴史的に構築されていることをふまえることが大切であることを理解する。                                                                                           | ・「旅」を題材に私たちの生活や身近な地域などにみられる諸事象が、日本や日本周辺の地域および世界の歴史とつながっていることを理解している。<br>・「旅がり」を考える際には、空間的な広がりや階層的な広がりがあることが大切であることを理解している。                                                                                                      | ・諸資料や図版などから適切に情報を読みとり、その時代の旅の様子や現代との異同を判断している。<br>・「旅」を題材に近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と関わらせて、日本や日本周辺の地域および世界の歴史との関連性について考察し、表現している。                                                                           | ・身近な題材に対して自身で「問い」を立て、歴史との関連を追及しようとしている。                                                                                                                                                          | ○ | ○ | ○ | 1    |
|     |             | ②歴史の特質と資料 歴史資料とは何だろうか | ①資料にもとづいて歴史が叙述されていることを理解する。<br>②資料の性格をふまえ批判的に読みとることについて理解する。                                                                                                                                                | ・憲法制定を題材に、資料の種類・特性や作成の時期・場所・主体・目的・脈絡等をふまえた批判的な読みとりと吟味が重要であることを理解している。                                                                                                                                                           | ・資料や図版などから適切に情報を読みとり、時期や立場による書かれ方の違いなどを判断している。<br>・憲法制定を題材に複数の資料の関係や異同に着目して、資料から読みとった情報の意味や意義、特色などを整理し、表現している。                                                                                                  | ・資料から読みとったことを生徒相互に発表したり、対話したりするなどして、資料にもとづいた考察をしようとしている。<br>・資料を読みとる際の注意点を整理し、学習への見通しを立てようとしている。                                                                                                 | ○ | ○ | ○ | 2    |
|     | 第1部 近代化と私たち | 近代化の導入                | 「交通と貿易」「産業と人口」「権利意識と政治参加、国民の義務」「学校教育」「労働と家族」「移民」についての諸資料を活用して、情報を読みとったりまとめたりする技能を習得し、人々の生活や社会のあり方が近代化にともない変化したことについて考察するための問いを表現する。                                                                         | ・地図や統計、絵画、文書など様々な資料から、情報を読みとったりまとめたりする技能を身につけている。                                                                                                                                                                               | ・近代化にともなう生活や社会の変容について考察し、自分自身の問いを表現している。                                                                                                                                                                        | ・近代化にともなう生活や社会の変化について、自身が抱いた興味・関心や疑問、追及してみたいことなどを見出して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。                                                                                                                      | ○ | ○ | ○ | 1    |
|     |             | 第1章 結びつく世界と日本の開国      | 1 18世紀の東アジアにおける社会と経済<br>①中国で手工業や技術の発展がみられるなか、輸送網と金融システムの展開によって活発な商取引がおこなわれていたことを理解する。<br>②中国と日本の商品生産と流通を対比して、それぞれの経済発展や社会の変容について考察する。<br>③幕藩体制のしくみとその特徴について理解する。<br>④大坂を中心とした遠隔地海運が発展し、各種の商品生産が発展したことを理解する。 | ・諸資料から18世紀の東アジアにおける社会と経済の特徴を理解している。<br>・蘇州の繁栄を描いた絵や中国における遠隔地商人の活動を読みとっている。<br>・大坂が物資の集散地となった理由を、教科書の本文や地図から読みとっている。<br>・昆布の交易ルート把握している。                                                                                         | ・諸資料を読みとくことで、近世の中国社会と経済の特徴について考察している。<br>・中国と日本の人口グラフおよび中国に関する資料を読みとり、両国の特徴と相違点を考察している。<br>・大坂を中心とする経済の一体化と発展を、教科書の本文も利用しながら表現している。                                                                             | ・商業ルートの発達地図と資料を組みあわせて理解をしようとしている。<br>・18世紀の人口増加のグラフを参照しながら、17世紀と19世紀の日中比較や背景などに対して、学習の見通しをもって取り組むとともに、自身の問いと関連づけて追及しようとしている。<br>・江戸時代の日本の国制の図をみて、現在の日本との違いについて具体的な事例をあげて意見交換しようとしている。            | ○ | ○ | ○ | 2    |
|     |             | 2 貿易が結んだ世界と日本         | ①アジア域内貿易がどのようにおこなわれていたかを理解する。<br>②18世紀の中国がアジア域内貿易や貿易を通じて、欧米諸国とどのように結びついていたのかを理解する。<br>③18世紀の日本がどこを結節点として、どのような形で世界と結びついていたのかを理解する。                                                                          | ・諸資料からアジア域内貿易の状況と、貿易を通じての欧米諸国との経済的なつながりを理解している。<br>・諸資料から中国が欧米諸国とどのように貿易で結びついていたのかなどの情報を調べてまとめ、18世紀の中国の対外貿易の状況を理解している。<br>・18世紀の日本が具体的にどのような形で世界と結びついていたのかを理解している。                                                              | ・アジア域内貿易のあり方を考察し、表現している。<br>・18世紀の中国と欧米諸国との貿易のあり方を考察し、表現している。<br>・18世紀の日本と世界の結びつきに着目して、日本がどのような形で世界と結びついていたのかを考察し、表現している。                                                                                       | ・18世紀の中国や日本と世界の結びつきについて、学習の見通しをもって取り組むとともに、自身の問いと関連づけて追及しようとしている。<br>・18世紀の中国や日本と世界の結びつきが、その後の時代にどのように変容するかなどの視点を持ち、その後の学習につなげようとしている。                                                           | ○ | ○ | ○ | 2    |
|     |             | 3 産業革命                | ①産業革命がなぜイギリスから始まったのかを理解する。<br>②産業革命が当時の人々の生活や社会におよぼした変化を理解する。<br>③産業革命がイギリス以外に普及した過程と、国によってその様相が異なっていたことを理解する。<br>④産業革命によって加速した世界の一体化が、どのように進み、どのような影響をおよぼしたのかを理解する。                                        | ・諸資料からイギリス産業革命の背景やその影響を理解している。<br>・諸国の産業革命の背景や経過について比較し、とくに後発資本主義国の特徴について理解している。<br>・産業革命が世界の一体化へおよぼした影響について理解している。                                                                                                             | ・産業革命による労働の質の変化について考察し、表現している。<br>・産業革命が人々の生活に与えた影響をふまえ、豊かさとは何かについて考察している。                                                                                                                                      | ・産業革命の進展について、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追及しようとしている。<br>・産業革命期の児童労働がみずから同世代の境遇であることと理解し、問題の原因について主体的に追及しようとしている。<br>・交通の発達を描いた絵の内容を読みとったうえで、自分なりに適切であると思う絵のタイトルを考察し、表現しようとしている。              | ○ | ○ | ○ | 2    |
|     |             | 4 中国の開港と日本の開国         | ①欧米諸国が東アジアに勢力を拡大した理由と、開港場の増加や貿易制限の緩和など中国の外交政策の転換について理解する。<br>②日本でも「鎖国」政策の転換をせまられ、貿易を開始したことがその後の政治に与えた影響について理解する。<br>③中国の開港・日本の開国と産業革命との関係、および従来の東アジア地域間の貿易や人・情報の流れの変容について考察する。                              | ・諸資料から欧米諸国のアジア進出の背景や意図を読みとり、中国の開港や日本の開国が、人々の生活に与えた影響を理解している。<br>・原材料の供給と製品の市場という形を通じて、東アジアが世界各地と貿易で結びつけられていったことを理解している。<br>・貿易の開始が東西文化に与えた影響、および人口の移動が移民問題に発展する過程について理解している。<br>・戦争の有無や貿易の状況など、中国の開港と日本の開国がもつ相違点について理解している。     | ・諸資料の読みとりを通して、欧米諸国のアジア進出の背景や目的を考察し、表現している。<br>・中国の開港と日本の開国の背景や影響について、自身で問いを立てて表現している。<br>・人・モノ・情報の往来を通して、世界経済のなかで東アジアがより大きな位置を占めるようになったことについて考察している。<br>・中国と日本が新たに抱えた課題の共通点と相違点について考察している。                      | ・諸資料の読みとりを通して、中国の開港と日本の開国により、東アジアがどのように変容したかという問いに対して、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追及しようとしている。<br>・開港と開国以降、その後の時代に何がどのように変容するかという俯瞰的な視点を持ち、産業革命や条約改正などの中学校までの学習を活用して、その後の学習につなげようとしている。       | ○ | ○ | ○ | 2    |
|     | 第1部 近代化と私たち | 定期考査                  |                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                  | ○ | ○ | ○ | 1    |
|     |             | 1 市民革命                | ①アメリカ独立革命が1つの市民革命であったことを理解する。<br>②フランス革命のなかでめざされた様々なことについて理解する。<br>③ナポレオンの台頭とフランス革命の関係について理解する。<br>④アメリカ独立革命とフランス革命が世界各地に与えた影響について理解する。                                                                     | ・アメリカ独立宣言やフランス人権宣言の資料を読みとり、そこで述べられている政府の存在意義を理解している。<br>・アメリカ独立革命がこの時期におこった背景について理解している。<br>・ラテンアメリカ諸国の独立の背景や経緯について理解している。                                                                                                      | ・アメリカ独立革命とフランス革命の共通点と相違点について考察している。<br>・フランス革命やナポレオンの進出が他のヨーロッパ諸国に与えた影響について考察している。                                                                                                                              | ・市民革命の展開について、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追及しようとしている。<br>・フランス革命に関する風刺画を読みとるなかで、内容に関心をもち、風刺画の意味について自分なりに考察しようとしている。<br>・市民革命の定義について理解したうえで、日本の歴史を振り返り、市民革命と呼べるようなものがあつたかについて、自分なりに考察しようとしている。 | ○ | ○ | ○ | 2    |
|     |             | 2 国民国家とナショナリズム        | ①ヨーロッパ諸国が国家統一や改革へ乗り出した背景について理解する。<br>②国民国家の特徴について身分制国家などと対比して理解する。<br>③独立後のアメリカ合衆国における国家統一の経緯について理解する。<br>④オスマン帝国とガージャール朝における改革の動きについて理解する。                                                                 | ・諸資料から、国民国家を形成しようとする動きが19世紀になって広まった原因を理解している。<br>・アメリカ合衆国の国民統合における南北戦争の意味について理解している。<br>・西アジアにおける改革の動きとヨーロッパ進出の関係について理解している。                                                                                                    | ・国民国家の形成がもたらした影響や課題について考察している。<br>・西アジアにおける改革の動きについて、日本との比較もふまえて考察している。                                                                                                                                         | ・国民国家の形成について、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追及しようとしている。<br>・フランス国歌の歌詞を読みとり、なぜそのような激烈な内容になったのか主体的に追及しようとしている。<br>・「国民」という自明な概念について、歴史的な経緯をふまえ、あらためてその意味について自分なりに追及しようとしている。                      | ○ | ○ | ○ | 2    |
|     |             | 3 明治維新                | ①日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などをもとに、立憲体制と国民国家の形成について理解する。<br>②国民国家の形成の背景や影響などに着目して、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを考察する。                                                                                                      | ・冒頭の資料や諸資料から、ペリー来航以降の国政の変化のなかで、政治参加の範囲が広がりを果たしたことを理解している。<br>・大名や下級武士、士族や豪農らが政治参加を求める運動の主体となったことや、その展開について理解している。<br>・憲法制定が民権派との緊張のなかで政府の主導により実行され、議会の地位や参政権などに課題が残されたことを理解している。                                                | ・諸資料の読みとりを通して、幕末から明治時代初期の政治や社会の変動について考察し、五箇条の誓文が、国会開設の出発点となったことを考察している。<br>・日本の立憲国家の成立過程の特徴を欧米の事例の学習を振り返りながら比較の視点を用いて整理し、当時、欧米からなされた評価の意味や課題を考察している。<br>・国民統合や文明開化といった社会の変化が人々に与えた影響について、階層や地域による違いを整理し、表現している。 | ・日本はどのようにして国民が政治に参加する国になったのかという問いについて、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追及しようとしている。<br>・これまでの学習を振り返り、欧米諸国の立憲体制と比較しながら明治維新の特色や課題を考察しようとしている。<br>・明治維新の特色や課題を整理し、今後の歴史展開に関わる課題を追及しようとしている。           | ○ | ○ | ○ | 2    |
|     |             | 4 日本の産業革命             | ①産業革命の成功国としての自由貿易にともなう、日本の産業界の変容と再編の過程について理解する。<br>②近代産業発展の基盤となる政府の金融・貨幣制度の整備、および情報伝達や交通網の整備を含む殖産興業政策について理解する。<br>③紡績業と製糸業の特徴と相違点、経済発展に果たした役割について理解するとともに、民間産業の成長と財閥の成立要因および産業革命成立との関連について考察する。             | ・自由貿易開始にともなう国際経済の枠組みへの参入が日本社会、とくに近代産業の発展に与えた影響について理解している。<br>・積極財政と緊縮財政の相違点、日本銀行の役割、貨幣価値や為替相場の安定の仕組みについて理解している。<br>・紡績業と製糸業の生産方法、原料や機械、海外市場、労働者の技術、日本経済に与えた役割などについて対比して理解している。<br>・イギリスよりも遅れて始まった日本の産業革命が短期間で達成された要因について理解している。 | ・幕末における自由貿易と国内産業の再編が、資本家層の形成につながることを通じて、産業革命や資本主義成立との関連について考察している。<br>・積極財政や金本位制への移行など、経済政策がもつ長所と短所について整理し、考察している。<br>・炭鉱や造船所などの払い下げが、民間産業の育成や財閥の成長につながったことを考察している。                                             | ・欧米諸国との産業革命成立の違い、および日本の産業革命の特徴は何かという問いに対して、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追及しようとしている。<br>・産業革命とその後の公害（環境）・労働・エネルギーなどの社会問題がどのように関連し、現代の諸課題とも結びつくのかという視点を持ち、その後の学習につなげようとしている。                    | ○ | ○ | ○ | 2    |

2  
学  
期

第Ⅱ部 国際秩序の変化や大衆化と私たち

|                         |                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                  |  |   |   |   |   |
|-------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|---|---|---|---|
| 5 帝国主義                  | ①欧米諸国による植民地化の背景や経緯について理解する。<br>②帝国主義が西アジアや中央アジアにどのような変化をおよぼしたのかについて理解する。<br>③帝国主義が南アジアや東南アジアにどのような変化をおよぼしたのかについて理解する。                                                                                                                                       | ・諸資料から、帝国主義を進めた諸国の共通点と相違点を理解している。<br>・西アジアと中央アジアにイギリスとロシアがとくに影響をおよぼしたことを理解している。<br>・南アジアと東南アジアが植民地としてどのような役割を担われたのか理解している。                                                                                                  | ・ヨーロッパ諸国における帝国主義と国民国家の関係について考察している。<br>・帝国主義において、軍事面だけでなく経済面や文化面からの要素もふまえて考察している。                                                                                                                                                                                             | ・植民地化の進展について、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。<br>・帝国主義に関する風刺画を読みとるなかで、内容に関心をもち、風刺画の意味について自分なりに考察し、表現しようとしている。<br>・植民地とされた地域には現在まで続く問題があることに気づき、このような歴史と現在の関係の類例がほかにはないかについて、主体的に追究しようとしている。           |  | ○ | ○ | ○ | 2 |
| 6 変容する東アジアの国際秩序         | ①明治維新後の日本が、外交交渉や国境の画定を通して、主権国家、国民国家の形成をめざしたことについて理解する。<br>②朝鮮の近代化がどのような国際関係のもとで進み、日本や清・ロシアなどの周辺国がどのように対応したかについて理解する。<br>③日清戦争の勝利が、朝鮮・日本・中国などの東アジアの国際秩序に与えた影響について考察する。                                                                                       | ・日本が、領土の画定、条約改正、国交の締結などの外交交渉を通して、主権国家として近代化がめざされたことについて理解している。<br>・朝鮮の近代化に東アジア諸地域の変化が与えた影響、および周辺国が朝鮮の内政に介入した理由について理解している。<br>・条約改正の経過および日清戦争との関係について理解している。<br>・日清戦争が、中国を中心とした東アジアの国際秩序の変化および日本の帝国主義政策に与えた影響について理解している。     | ・諸資料の読みとりを通して、明治初期の諸条約の歴史的意義を考察するとともに、琉球および蝦夷地の日本への編入についても考察している。また、その際に北方領土や尖閣諸島、竹島、小笠原諸島などが国際法上、正当な根拠にもとづき日本に編入されたことについて考察し、表現している。<br>・朝鮮および周辺国が相互に求めた思惑について関連づけて考察している。<br>・条約改正を通して、国民が何を望み、一方で何を危惧したかについて考察し、表現している。<br>・諸資料の読みとりを通して、日清戦争前後にみられる日本人のアジア観の変化について考察している。 | ・日清戦争までの東アジアの歴史的経緯、および戦後の東アジアがどのように変容したかという問いに対して、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。<br>・現在の領土問題やグローバル化の進展と主権国家の関係性などの視点をもち、課題意識をもって考察し、その後の学習につなげようとしている。                                              |  | ○ | ○ | ○ | 2 |
| 7 日露戦争と東アジアの変動          | ①日清戦争後の欧米列強や日本の勢力拡大に対する、清や朝鮮の政府や民衆の動向について理解する。<br>②日露戦争後の日本の動向、および韓国の植民地化など東アジアをめぐる国際関係の変容について理解する。<br>③日露戦争後、辛亥革命に至る中国の民族運動と近代化の動向について理解する。                                                                                                                | ・日清・日露戦争を通して日本国民の対外意識が変化したことについて理解している。<br>・日露戦争における日本の勝利が、アジア諸民族の独立や近代化の動きに刺激を与えたこと、およびその後の変容について理解している。<br>・韓国の植民地化や辛亥革命による清の滅亡と中華民国の建国などの東アジアの変容について、帝国主義政策を結びつけて理解している。                                                 | ・資料の読みとりを通して、産業革命後の列強が抱える経済的な諸問題と植民地獲得の動機について関連づけて考察している。<br>・日露講和会議における両国の主張・立場の違いと妥協点について、現在どのように考えられているかも含めて考察している。<br>・この時期における中国・朝鮮・日本の変容の歴史的経緯について、欧米列強の動きと関連づけて考察し、表現している。                                                                                             | ・アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較し、帝国主義政策の特徴や列強間の関係がどのように変化したのかという問いに対して、見通しをもつて課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけて追究しようとしている。<br>・日露戦争の勝利が東アジア諸国の変容とどのように関連し、領土問題や外交案件などの現代的な諸課題とも結びついているかという視点をもち、その後の学習につなげようとしている。                   |  | ○ | ○ | ○ | 2 |
| 近代化と現代的な諸課題             | 近代化の歴史に存在した「開発・保全」「対立・協調」「自由・制限」に関わる課題について諸資料を活用して考察し、それらが現代的な諸課題の形成にどのように関わっているのかについて理解する。                                                                                                                                                                 | ・地図や統計、絵画、文書など様々な資料を活用して、環境汚染や環境保全への試みといった現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史について理解している。                                                                                                                                                   | ・事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、複数の事象を比較したり、相互に関連づけたりするなどして、「開発・保全」「対立・協調」「自由・制限」について考察し、表現している。                                                                                                                                                                                       | ・よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりをふまえて「近代化と私たち」の学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりや課題を見いだそうとしている。                                                                                                                                       |  | ○ | ○ | ○ | 2 |
| 定期査考                    |                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                  |  | ○ | ○ | ○ | 1 |
|                         | 「20世紀の国際関係の緊密化」「アメリカ合衆国とソヴィエト連邦の台頭」「植民地の独立」「大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化」「生活様式の変化」についての諸資料を活用して、情報を読みとったりまとめたりする技能を習得し、人々の生活や社会のあり方が大衆化にともない変化したことについて考察するための問いを表現する。                                                                                                | ・地図や統計、絵画、文書など様々な資料から、情報を読みとったりまとめたりする技能を身につけている。                                                                                                                                                                           | ・大衆化にともなう生活や社会の変容について考察し、自分自身の問いを表現している。                                                                                                                                                                                                                                      | ・大衆化にともなう生活や社会の変化について、自身が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。                                                                                                                                      |  | ○ | ○ | ○ | 1 |
| 1 第一次世界大戦の展開            | ①第一次世界大戦がなぜ最初の「大戦」となったのかを理解する。<br>②第一次世界大戦と日本の関わりについて理解する。<br>③第一次世界大戦にアメリカ合衆国がどのように関わっていたのかを理解する。<br>④第一次世界大戦中にかわされた秘密外交を含む外交関係の内容と、その問題点について理解する。<br>⑤第一次世界大戦中に各国でとられた総力戦体制の内容とその影響について理解する。                                                              | ・諸資料から、第一次世界大戦が当初の予想よりも長期化した要因を理解している。<br>・ヨーロッパの戦争が日本やアメリカ合衆国など、ヨーロッパ外にまで拡大した経緯について理解している。<br>・第一次世界大戦中に出された十四カ条の平和原則と「平和に関する布告」の内容と意義について理解している。                                                                          | ・第一次世界大戦の特徴について、それまでの戦争と比較したうえで考察している。<br>・第一次世界大戦が人々の生活や社会に与えた影響について考察している。                                                                                                                                                                                                  | ・第一次世界大戦の展開について、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。<br>・第一次世界大戦に関するプロパガンダポスターを読みとるなかで、内容に関心をもち、それらの意味について自分なりに考察しようとしている。<br>・総力戦体制がとられた国家における人々の生活状況をふまえ、どのような問題点があるのか主体的に考察しようとしている。                   |  | ○ | ○ | ○ | 2 |
| 2 ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭 | ①ロシア革命の経過、および「土地に関する布告」「平和に関する布告」などからわかるボリシェヴィキ政権の性格を理解する。<br>②コミンテルンの設立と、それに応じた諸外国の反応を理解する。<br>③対ソ干渉戦争からの経済政策の変化、およびスターリン政権の性格について理解する。<br>④第一次世界大戦後のアメリカ合衆国の国際的地位の上昇とアメリカ国内の考え方の差異について理解する。<br>⑤アメリカ合衆国の経済的繁栄と、アメリカ社会に存在した不寛容な傾向について理解する。                 | ・諸資料から第一次世界大戦後のソ連とアメリカ合衆国の特徴について正しく理解している。<br>・とくにソ連・アメリカの経済的な特徴（戦時共産主義・ネップ・五カ年計画・大量生産・大量消費）について理解している。                                                                                                                     | ・「平和に関する布告」やコミンテルンの設立などからみられる社会主義革命の波及を、諸外国はなぜ恐れたのかについて考察している。<br>・アメリカ合衆国の経済的繁栄がもたらした問題点について考察している。                                                                                                                                                                          | ・第一次世界大戦後の世界におけるソ連とアメリカ合衆国の影響力について、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。<br>・ソ連工業の推移のグラフなどから社会主義の経済的特徴を理解し、その利点および問題点を考察しようとしている。<br>・アメリカ合衆国の不寛容な傾向について、どのような立場の人々が排斥の対象となり、なぜそのようなことがおこったのかを考察しようとしている。  |  | ○ | ○ | ○ | 2 |
| 3 ヴェルサイユ体制とワシントン体制      | ①ヴェルサイユ条約の内容（国際連盟の設立・ドイツの賠償）、およびその結果としてのドイツの状況について理解する。<br>②ワシントン会議で締結された3つの条約（ワシントン海軍軍縮条約・四カ国条約・九カ国条約）の内容、およびアメリカ合衆国の意図について理解する。<br>③日本が協調外交を推進した意図および軍部の反発について理解する。<br>④アメリカ合衆国の孤立主義およびドイツの賠償金支払い緩和策（ドーズ案・ヤング案）について理解する。                                  | ・諸資料からヴェルサイユ体制・ワシントン体制の内容を理解している。<br>・ヴェルサイユ条約でのドイツに対する賠償についての、フランス・イギリスとアメリカ合衆国の立場の違いを理解している。<br>・ワシントン会議で締結された3つの条約の内容、およびアメリカ合衆国の意図を理解している。                                                                              | ・諸資料から読みとれるパリ講和会議・ワシントン会議の各国の立場の違いについて考察している。<br>・パリ講和会議は今までの講和会議とどのような違いがあったか、それはなぜかについて考察している。<br>・パリ講和会議・ワシントン会議における日本の立場を考察している。                                                                                                                                          | ・第一次世界大戦後の新たな国際協調体制について、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。<br>・ヴェルサイユ体制・ワシントン体制で生じた課題と、その課題が次の大戦を防ぐことができなかった理由を考察しようとしている。<br>・なぜ課題の多い国際体制しか築くことができなかったのかについて、現在の国際体制と比較しながら考察しようとしている。                 |  | ○ | ○ | ○ | 2 |
| 4 世界経済の変容と日本            | ①第一次世界大戦直前の日本で、貿易赤字など国際収支の危機が続いた理由について理解する。<br>②第一次世界大戦がアジア市場に与えた影響、およびアメリカ合衆国が世界の経済的中心に移行したことについて理解する。<br>③第一次世界大戦の開戦により、日本が債権国に転換するとともに、物価の上昇をもたらしたことについて理解する。<br>④日本が戦後恐慌に見舞われた原因と経過について理解する。<br>⑤1920年代の日本では恐慌が連続して、そのなかで積極財政と緊縮財政の双方がおこなわれたことについて理解する。 | ・日露戦争と紡績業の発展が、日本経済にそれぞれ与えた影響を理解している。<br>・総力戦の直接的な影響を受けなかった日米両国が経済成長する要因を理解している。<br>・大戦景気が国内の物価を上昇させ、実質賃金が低下した仕組みを理解している。<br>・ドイツとの戦争が日本の産業に与えた影響、および好景気の反動により不況（恐慌）が拡大する仕組みを理解している。<br>・1920年代に続いた恐慌への、政府の対応策の特徴について理解している。 | ・諸資料の読みとりを通して、日本の経済状況の変化について、時期を区分して考察し、表現している。<br>・実質賃金と物価の関係、戦争による輸出入の変化、金の輸出禁止や解禁措置の持つ意味や影響について考察している。<br>・積極財政と緊縮財政の具体的な方法と長所・短所について対比して考察している。                                                                                                                           | ・第一次世界大戦以降の経済状況の変容、アメリカ合衆国が世界経済の中心へと移行する要因、アジア市場が戦争を経てどのように変化したのかという問いに対して、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。<br>・大戦景気のなかで可視化された格差の拡大、および大戦後の国際環境の変化による不況から生じた経済的な要求と大衆運動の関係などの視点をもち、その後の学習につなげようとしている。 |  | ○ | ○ | ○ | 2 |
| 5 アジアのナショナリズム           | ①第一次世界大戦後に高揚した朝鮮半島や中国のナショナリズムのあり方やその相違点について理解する。<br>②ナショナリズムが高揚した時期の、中国やインドの経済的・社会的変容について理解する。<br>③インドや西アジア諸地域のナショナリズムの特色とその展開について理解する。                                                                                                                     | ・諸資料から、朝鮮半島や中国の民族運動の様相とその相違を理解している。<br>・ナショナリズムが高揚した時期の、中国やインド社会の様相とその変容を理解している。<br>・教科書の本文や諸資料から、インドや西アジア諸地域のナショナリズムの特色とその展開を理解している。                                                                                       | ・朝鮮半島・中国でのナショナリズムの様相とその相違を考察し、表現している。<br>・ナショナリズムが高揚した時期の中国やインド社会の様相とその変容を考察し、表現している。<br>・インドや西アジア諸地域のナショナリズムの特色とその展開を考察し、表現している。                                                                                                                                             | ・イギリスのインド統治のあり方や第一次世界大戦中のイギリスの多重外交などが、その後のどのような状況を生み出したのかについての視点をもち、課題意識をもって追究しようとしている。<br>・第一次世界大戦後に高揚したアジアのナショナリズムについて、学習の見通しをもって取り組むとともに、自身の問いと関連づけて追究しようとしている。                                               |  | ○ | ○ | ○ | 2 |

|     |                     |                 |                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                    |   |   |   |   |
|-----|---------------------|-----------------|-----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|
|     |                     |                 | 6 大衆の政治参加       | ①欧米諸国において、工業化の進展により労働運動や社会主義運動が広がり、第一次世界大戦を機に参政権が拡大したことについて理解する。<br>②日本では、大正デモクラシーの進展を受け、2度の護憲運動を経て政党内閣が成立したことについて理解する。<br>③大正期におきた様々な社会運動の特徴と変容、および政府の対策について理解する。                                                                                                                         | ・欧米諸国では、国民生活の向上や工業化の進展、総力戦への協力により、女性や労働者などが一定の政治的影響力をもつに至ったことを理解している。<br>・日本で男性の普通選挙法が成立した背景として、米騒動や日ソの国交樹立、共産党の成立などの社会や世界情勢の変化があったことを理解している。<br>・労働運動と社会主義運動のもつ共通点と相違点を理解している。<br>・社会運動の広がりや大衆社会の形成に、学問や教育制度、マスメディアの発達に影響を与えたことを理解している。                                                    | ・諸資料の読みとりを通して、大正デモクラシーが、アメリカ合衆国の民主主義やロシア革命、社会主義政権の成立などの世界的な流れを受けて成長したことを考察している。<br>・一方で当時の大衆政治運動が、大日本帝国憲法の枠内という限界を抱えていたことを、具体的に考察している。<br>・日本でも、工業化の進展や職業婦人の社会進出などを通して、大衆が政治への影響力を強めたことについて考察している。<br>・新中間層の出現や学問・教育・マスメディアの拡充が、男性普通選挙や政党内閣の成立に影響を与えたことについて考察している。 | ・明治時代と異なり、大正時代以降には様々な権利を求める運動が成長し、一定の成果を得ることができたのはなぜかという問いに対して、学習の見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。<br>・日本で男性普通選挙が成立しても、女性参政権の実現には至らなかった要因、および議院内閣制（「憲政の常道」）が当時は「慣習」でしかなかったことについての視点をもち、現代や他国の状況と比較して、その後の学習につなげようとしている。 | ○ | ○ | ○ | 2 |
|     |                     |                 | 7 消費社会と大衆文化     | ①アメリカ合衆国の大衆消費社会が、マスメディアを通して、生活や文化の平準化や画一化につながったことについて理解する。<br>②日本でも大衆消費文化が流行し、新しい生活様式や価値観が都市部を中心に広がったことについて理解する。<br>③高等教育の拡充やマスメディアの発達が、大衆消費社会の発展や政治に与えた影響について理解する。                                                                                                                        | ・日本でも大量生産・大量消費を可能とした要因や価格の低下がもたらす社会変化、時間の概念の変化と余暇の拡大などの関連について理解している。<br>・交通機関やマスメディアの発達が、都市域の拡大や余暇の多様化などの新しい生活様式をもたらしたことを理解している。<br>・広告や宣伝が、社会や文化の平準化と画一化を進め、政府が宣伝・広報活動や言論の統制を強める過程について理解している。                                                                                              | ・諸資料を活用しながら、大量生産・消費がもたらした大衆文化の広がりや、新たな課題について考察している。<br>・関東大震災と都市化、交通機関の発達と衣・食・住の変化、工業化の進展による人とモノの移動と新たな課題について、相互に関連づけて考察している。<br>・科学技術や通信網の発達により、資本や情報もグローバル化し、世界的に社会の変容をもたらしたことについて考察している。                                                                        | ・都市的で画一化した生活様式や、大量生産と大量消費を前提とした大衆文化がどのように発展したのかという問いに対して、学習の見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。<br>・明治時代の家族像や当時の工女、現代社会における新しい家族像や女性の社会進出と、当時の大衆文化の成立はどのように関連するのかという視点をもち、その後の学習につなげようとしている。                               | ○ | ○ | ○ | 2 |
|     |                     |                 | 定期審査            |                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                    | ○ | ○ | ○ | 1 |
| 第Ⅱ部 | 第4章<br>経済危機と第二次世界大戦 | 国際秩序の変化や大衆化と私たち | 1 世界恐慌の時代       | ①アメリカ合衆国で大恐慌が発生した原因と対策、および世界への波及について理解する。<br>②アメリカ合衆国のニューディール（政策）とその後の国内の変化について理解する。<br>③アメリカ合衆国の孤立主義、とくに中立法が内外に与えた影響について理解する。<br>④昭和恐慌の原因と、とくに農村への影響および政府の対策について理解する。<br>⑤政権交代による恐慌対策の転換と、その影響について理解する。                                                                                   | ・アメリカ合衆国の大恐慌と、ヨーロッパや日本がどのように結びついているのかについて理解している。<br>・日本が世界に先がけて恐慌から脱出した時期と要因について理解している。<br>・恐慌に向けた財政政策の相違点とそれぞれの長所・短所について、対比して理解している。<br>・恐慌脱出後の日本社会の変化、および新たに生じた問題点について理解している。                                                                                                             | ・グラフや統計などの諸資料を読みとり、経済状況の圏期や政策の転換点について考察し、表現している。<br>・恐慌対策である積極財政と緊縮財政の相違点、および長所と短所について考察し、表現している。<br>・金本位制と管理通貨制の特徴と問題点、自国優先の諸政策が国際協調体制に与えた影響などについて考察し、表現している。<br>・現代社会など他の時代における同様の事例の有無を考察し、当時との違いについて対比して考察している。                                                | ・アメリカ合衆国で発生した大恐慌が、ヨーロッパ諸国や日本をどのように巻き込み、各国はどのように対応したのかという問いに対して、学習の見通しをもって取り組むとともに、自身の問いと関連づけて追究しようとしている。<br>・世界恐慌への対応が国際協調体制を動揺させ、その反省から戦後の国際機関や経済の枠組みが再構築されたという視点をもち、その後の学習につなげようとしている。                                           | ○ | ○ | ○ | 2 |
|     |                     |                 | 2 ファシズムの伸長と共産主義 | ①イタリアやドイツでファシズムが伸長した背景とその特徴について、諸資料の比較・分析を通して理解する。<br>②ファシズムの伸長によりヴェルサイユ体制が崩壊したこと、またそのなかでコミンテルンやソ連がファシズムに対してとった対応について理解する。<br>③ドイツがイタリア・日本に加えてソ連とも連携した要因と背景について理解する。                                                                                                                       | ・諸資料から、イタリアのムッソリーニ政権とドイツのヒトラー政権の共通点や特色、大衆から支持を受けた社会的背景を理解している。<br>・ファシズムの伸長によりヴェルサイユ体制が崩壊したこと、またそのなかでコミンテルンが人民戦線戦術を提唱したことや、その世界的影響を理解している。<br>・諸資料から、日本・ドイツ・イタリアが連携した目的や背景、および共産主義を敵とみなしていたドイツが、ソ連と連携した背景と影響について理解している。                                                                     | ・ファシズムが伸長した背景とその特徴を、イタリアのムッソリーニ政権とドイツのナチ党政権を比較しつつ考察し、表現している。<br>・ファシズムの伸張とヴェルサイユ体制崩壊のなかで、コミンテルンがとった人民戦線戦術とその世界的影響を考察し、表現している。<br>・日本・ドイツ・イタリアが連携した背景とその状況を考察し、表現している。<br>・互いに敵とみなしていたドイツとソ連が連携した背景とその影響について考察し、表現している。                                             | ・ファシズムの伸長とヴェルサイユ体制の崩壊、共産主義勢力の対応について、学習の見通しをもって取り組むとともに、自身の問いと関連づけて追究しようとしている。<br>・ドイツとソ連の連携が、第二次世界大戦の情勢にどのような影響を与えることになったのかという視点をもち、その後の学習につなげて追究しようとしている。                                                                         | ○ | ○ | ○ | 2 |
|     |                     |                 | 3 日中戦争への道       | ①中国国民党が南京国民政府を成立させた経緯と、国際社会、とくに日本や中国共産党との関係について理解する。<br>②日本が満洲事変を引き起こした理由、および国内政治や国際関係に与えた影響について理解する。<br>③日中戦争に至る背景と、2つの中国政府が成立するなかで戦争が長期化した理由について理解する。                                                                                                                                    | ・満洲事変と日中戦争がもつ共通点と相違点について、国際関係の変化を含めて理解している。<br>・日本政府と軍部の関係性、諸外国の対応、中国国内の政治体制の各変化について関連づけて理解している。<br>・戦争を抑止できず拡大に向かった諸要因について理解している。                                                                                                                                                          | ・地図や諸資料の読みとりを通して、満洲事変と日中戦争がどこで展開し、どのような被害があったかについて考察し、表現している。<br>・中国の開戦自主権の変化が中国市場やとくに日本に与える影響と、この時期の軍事行動との関係について考察し、表現している。<br>・満洲国および2つの国民政府の並立に対して、西ヨーロッパ諸国や日本がどのように関わったのかについて考察している。                                                                           | ・世界恐慌以降の経済危機と中国における国内変化が、日本の政治や軍事行動にどのような影響を与えたのかという問いに対して、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。<br>・第二次世界大戦後の社会が、満洲事変や日中戦争から始まる戦禍の反省のうえに成り立っているという視点をもち、その後の学習につなげようとしている。                                                  | ○ | ○ | ○ | 2 |
|     |                     |                 | 4 第二次世界大戦の展開    | ①第二次世界大戦が、大規模で凄惨かつ長期化した戦争となった背景とその情勢について理解する。<br>②第二次世界大戦にアメリカ合衆国と日本がどのように関与したかについて、その背景や経緯をふまえて理解する。<br>③第二次世界大戦中に戦後構想はどのように進められたのか、および大戦末期の連合国内部の軋轢や原子爆弾の投下が戦後世界にどのような影響をおよぼしたのかについて理解する。                                                                                                | ・諸資料から、第二次世界大戦勃発の背景と大戦の推移、連合国の形成状況などの展開について理解している。<br>・諸資料から、第二次世界大戦中の日米対立の高まりと太平洋戦争に至った経緯を理解している。また、太平洋戦争中の日本がアジア地域に示した姿勢とその行動の実態の相違を理解している。<br>・諸資料から、連合国を中心とする戦後構想の推移とそのなかで生じた米英ソ間の軋轢を理解し、それがその後の世界にどのような影響を与えたのかを考察している。<br>・諸資料から、大戦末期の日本の状況とそれを取り巻く米・英・ソの認識、原子爆弾が投下された背景などについて理解している。 | ・第二次世界大戦が、大規模で凄惨かつ長期化した戦争となった背景と大戦の推移を考察し、表現している。<br>・ヨーロッパで始まった第二次世界大戦にアメリカ合衆国と日本がどのように関わったのか、および何が太平洋戦争勃発の要因となったのかについて考察し、表現している。<br>・連合国を中心とする戦後構想の推移とそのなかで生じた米・英・ソ間の軋轢と戦後世界への影響を考察し、表現している。<br>・大戦末期の日本の状況とそれを取り巻く米・英・ソの認識、原子爆弾の投下について考察し、表現している。              | ・第二次世界大戦が大規模で凄惨かつ長期化した戦争となった背景と大戦の推移について、学習の見通しをもって取り組むとともに、自身の問いと関連づけて追究しようとしている。<br>・第二次世界大戦中の戦後構想や原子爆弾の投下が、その後の世界に何をもたらしたのかという視点をもち、その後の学習につなげようとしている。                                                                          | ○ | ○ | ○ | 2 |
|     |                     |                 | 5 第二次世界大戦下の社会   | ①1930年代の日本で、ソ連やドイツのような計画経済や全体主義的な政治体制が構築された経緯を理解する。<br>②戦時下において女性や植民地の民衆などの動員がおこなわれた背景や経緯、それらの結果や影響を理解する。<br>③民衆に対する無差別攻撃がおこなわれたことを第二次世界大戦の特徴と関連させて理解し、組織的な虐殺・虐待などによる被害が深刻な人権侵害をもたらしたことについて理解する。<br>④戦争動員の際に構築されたシステムが戦後の制度や経済に影響を与えたこと、および戦争に対する反省がおこなわれたことを把握し、第二次世界大戦を戦後社会の構築の観点から理解する。 | ・計画経済システムが構築された経緯や、戦時下で連合国・枢軸国ともに大規模な民衆動員がおこなわれたことやその経緯について理解している。<br>・諸資料から民衆動員が女性や植民地民衆など広大な範囲で展開されたこと、および戦争の被害、組織的虐待などで一般市民の大規模な犠牲が生じたことを理解している。<br>・動員や統制、戦争の被害の経験から戦後の政治制度や社会保障、権利や役割の考え方が変化するとともに民主主義や平和を尊重する価値観が広がったことを理解している。                                                       | ・諸資料から読みとった情報をもとに、民衆動員の規模や時期について適切に整理し、その特徴を考察している。<br>・戦争の直接的な結果とは別に虐殺や虐待がおこなわれたことや、その規模について諸資料をもとに考察している。<br>・動員や統制の経験や、そのシステムが戦後における女性や植民地民衆の動き、および経済のシステムに与えた影響について考察し、表現している。                                                                                 | ・第二次世界大戦は人々にとってどのような経験であったのかという問いについて、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。<br>・第二次世界大戦下の社会の学習を振り返り、現代における平和構築や人権の課題などについて追究しようとしている。<br>・考察した結果を他者と共有したり、他者の意見を生かしたりして自身の考察を一層深めようとしている。                                    | ○ | ○ | ○ | 2 |

|                      |                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                    |   |   |   |   |
|----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|
| 国際連合と国際経済体制          | ①国際連合の特徴と課題を国際連盟と比較しながら理解する。<br>②第二次世界大戦後の世界経済秩序の形成過程と背景、その特徴を理解する。<br>③新たな国際体制において、アメリカ合衆国がどのような役割を果たしたのかを理解する。<br>④新たな国際体制は、日本の安全保障体制にどのような影響を与えたのかを理解する。                                       | ・諸資料から、国際連合の形成過程や目的、その実情や課題を、国際連盟と比較しつつ理解している。<br>・教科書の本文や諸資料から、第二次世界大戦後の国際経済体制の特徴を理解している。<br>・諸資料から、新たな国際体制において、アメリカ合衆国がどのような役割をどのような姿勢で果たしたのかを理解している。<br>・諸資料から、新たな国際体制が日本の安全保障体制に与えた影響を理解している。                                               | ・国際連合の特徴やその課題を、国際連盟と比較するなどして考察し、表現している。<br>・第二次世界大戦後の国際経済秩序の特徴とその形成の背景を考察し、表現している。<br>・第二次世界大戦前と比較して、アメリカ合衆国はどのような姿勢で国際秩序形成に関わり、どのような役割を果たしたのかを考察し、表現している。<br>・第二次世界大戦後の日本のおかれた状況に着目して、新たな国際体制が日本の安全保障体制にどのような影響を与えたのかを考察し、表現している。                                     | ・新たな国際体制はどのように形成されたのかという問いについて、学習の見通しをもって取り組むとともに、自身の問いと関連づけて追究しようとしている。<br>・国際連合や新たな国際経済秩序にはどのような課題があり、国際社会にどのような影響をおよぼしたのかという視点を持ち、その後の学習につなげて追究しようとしている。<br>・日本の安全保障体制は、その後の国際社会の情勢によりどのように変容したのかという視点を持ち、その後の学習につなげようとしている。                    | ○ | ○ | ○ | 2 |
| 7 占領と戦後改革            | ①占領と戦後改革について、ドイツと日本の事例を比較しながら、その特徴と展開を冷戦体制の文脈に位置づけて理解する。<br>②日本国憲法の成立について、その経緯を理解するとともに、日本の政治や社会への影響を諸資料を用いて説明できるようにする。<br>③戦後の政治や社会について、戦前からの連続や断絶の観点から理解する。                                     | ・ドイツと日本の占領体制の違いから、日本の政治・社会の体制がアメリカ合衆国の強い影響力のもとで構築されたことを理解している。<br>・女性や地主の地位の変化や、戦争犯罪人の処罰、日本国憲法の成立など戦前の政治・社会の体制の変革が求められた理由や経緯を理解している。<br>・政党政治が復活し、戦前の二大政党の流れをくむ保守政党が誕生したことや、革新勢力への注目も高まりを見せたことを理解している。                                          | ・諸資料をもとに日本とドイツの占領体制の共通点と相違点を適切に判断し、冷戦体制の文脈のなかでその影響や結果を考察している。<br>・諸資料から読みとった情報をもとに、天皇の位置づけや女性の地位などの変化について、これまでの学習と関連づけながら考察し、表現している。<br>・戦後改革や敗戦後の社会の混乱のなかで人々の価値観が変容したことや、それが政治社会運動に結びついていることについて、諸資料をもとに考察し、表現している。                                                   | ・占領は日本をどのように変えたのかという問いについて、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。<br>・諸資料を比較したり、分析したりした結果を活用して、現代的な課題と関連づけながら自身の考えを構築しようとしている。<br>・考察した結果を他者と共有したり、他者の意見を生かしたりして自身の考察を一層深めようとしている。                                                            | ○ | ○ | ○ | 2 |
| 8 冷戦の始まりと東アジア諸国の動向   | ①米・英・ソの関係はどのように変容し、またそのなかで世界の分断はどのように表面化し進んだのかに着目して、冷戦がどのように表面化したのか、またその特徴はどのようなものであったのかを理解する。<br>②表面化した冷戦は国際社会にどのような影響を与えたのかを理解する。<br>③冷戦は1940年代後半から50年代初頭にかけて、ヨーロッパやアジアにおいてどのような形で表面化したのかを理解する。 | ・諸資料から、米・英・ソの関係がどのように変容し、そのなかでヨーロッパの分断がどのように進んだのかについて理解している。<br>・世界の二極化がどのような形で展開したのかについて理解している。<br>・諸資料から、冷戦が分断国家を生み出し、アジア地域では熱戦という形で表面化したことについて理解している。                                                                                        | ・アメリカ合衆国を中心とする資本主義陣営とソ連を中心とする社会主義陣営の動向を結びつけたり比較したりして、冷戦の表面化とその特徴を考察し、表現している。<br>・表面化した冷戦が国際社会にどのような形で影響を与え、進展したのかについて考察し、表現している。<br>・ヨーロッパとアジアにおける冷戦の表面化はどのような違いがあったのかについて考察し、表現している。                                                                                  | ・世界の分断はどのように表面化し進んだのかという問いについて、学習の見通しをもって取り組むとともに、自身の問いと関連づけて追究しようとしている。<br>・冷戦の表面化と軍事ブロック化、アジア地域での熱戦が、その後の冷戦の進展と国際社会の変容にどのような影響をおよぼしたのかという視点を持ち、その後の学習につなげて追究しようとしている。<br>・冷戦の表面化が、第二次世界大戦後の日本のあり方にどのような影響をおよぼしたのかという視点を持ち、その後の学習につなげて追究しようとしている。 | ○ | ○ | ○ | 2 |
| 9 日本の独立と日米安全保障条約     | ①第二次世界大戦後の国際秩序と関連づけながら、日本の国際社会への復帰の経緯を理解する。<br>②冷戦の経緯から日本に期待された役割や、アメリカ合衆国がおこなった政策の意味を理解する。<br>③独立の経緯から、その後の日本に残された課題について理解する。                                                                    | ・年表や諸資料から、東西の緊張の高まりが、連合国の日本における占領政策を転換させたことを理解している。<br>・この当時のアメリカ合衆国がおこなった政策と関連づけながら、日米安全保障条約の意義と課題について理解している。<br>・日本と連合国との間に平和条約が結ばれ、日本が独立を回復した一方で、社会主義陣営の国々や東アジアの国々との間には別途条約の締結・交渉・賠償などの課題が残されたことを理解している。                                     | ・諸資料をもとにアメリカ合衆国の占領政策が転換した原因やその影響について考察している。<br>・日本の独立回復や安全保障のあり方について国内で論争が生じたことや、その論争の所在について諸資料をもとに考察し、表現している。<br>・独立後の日本の米軍基地および復帰前の米軍基地をめぐる問題の共通点と相違点を整理し、考察している。                                                                                                    | ・日本はどのようにして国際社会に復帰したのかという問いについて、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。<br>・諸資料の比較、分析を通して、サンフランシスコ平和条約や日米安全保障条約の成果と課題について、現代の諸課題と結びつけて自身の考えを構築しようとしている。                                                                                        | ○ | ○ | ○ | 2 |
| 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題  | 国際秩序の変化や大衆化の歴史に存在した「対立・協調」「統合・分化」「平等・格差」に関わる課題について諸資料を活用して考察し、それらが現代的な諸課題の形成にどのように関わっているのかを理解する。                                                                                                  | ・地図や統計、絵画、文書など様々な資料を活用して、日本とインドの鉄道や日本における鉄道政策をめぐる対立といった現代的な諸課題の形成に関わる大衆化の歴史について理解している。                                                                                                                                                          | ・事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、複数の事象を比較したり、相互に関連づけたりするなどして、「対立・協調」「統合・分化」「平等・格差」について考察し、表現している。                                                                                                                                                                                | ・よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりをふまえて「国際秩序の変化や大衆化と私たち」の学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりや課題を見出そうとしている。                                                                                                                                                                  | ○ | ○ | ○ | 2 |
| 定期考査                 |                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                    | ○ | ○ | ○ | 2 |
|                      | 「冷戦と国際関係」「人と資本の移動」「高度情報通信」「食料と人口」「資源・エネルギーと地球環境」「感染症」「多様な人々の共存」についての諸資料を活用して、情報を読みとったりまとめたりする技能を習得し、人々の生活や社会のあり方がグローバル化にともない変化したことについて考察するための問いを表現する。                                             | ・地図や統計、絵画、文書など様々な資料から、情報を読みとったりまとめたりする技能を身につけている。                                                                                                                                                                                               | ・グローバル化にともなう生活や社会の変容について考察し、自分自身の問いを表現している。                                                                                                                                                                                                                            | ・グローバル化にともなう生活や社会の変化について、自身が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。                                                                                                                                                                     | ○ | ○ | ○ | 1 |
| 1 冷戦下の地域紛争と脱植民地化     | ①冷戦が第二次世界大戦後に独立・建国した国々にどのような影響をおよぼしたのかを理解する。<br>②ベトナム戦争に対するアメリカ合衆国や韓国の姿勢や、日本政府の立場などを理解する。<br>③冷戦に対するアジア・アフリカ諸国の姿勢を、第三勢力の結集や非同盟諸国への流れなどの事例を通じて理解する。                                                | ・諸資料から、冷戦がアジア・アフリカ諸国に対して与えた影響および冷戦に対するアジア・アフリカ諸国の反応を理解している。<br>・パレスチナ問題や第1次・第2次中東戦争がどのような状況のもとで生じ、また推移したのかを理解している。<br>・インド・パキスタンの分離独立や東南アジア諸国の独立とその状況を理解している。<br>・ベトナム戦争に対するアメリカ合衆国や韓国の姿勢、日本政府の立場などを理解している。<br>・諸資料から、第三勢力の結集や非同盟諸国への流れを理解している。 | ・朝鮮戦争や中東戦争、インドシナ戦争、ベトナム戦争など冷戦下の地域紛争の要因とその影響を考察し、表現している。<br>・パレスチナ問題および第1次・第2次中東戦争の要因と推移を考察し、表現している。<br>・インド・パキスタンの分離・独立や東南アジア諸国の独立について考察し、表現している。<br>・ベトナム戦争に対するアメリカ合衆国や韓国の姿勢、日本政府の立場などを考察し、表現している。<br>・第二次世界大戦後に独立国が増加したアジアやアフリカ諸国を中心とする第三勢力の結集や非同盟諸国への流れを考察し、表現している。 | ・冷戦下でアジアやアフリカ諸国はそれぞれのような動きを見せていたのだろうかという問いに対して、学習の見通しをもって取り組むとともに、自身の問いと関連づけて追究しようとしている。<br>・第三勢力の動向が冷戦構造にどのような影響を与えたかという視点を持ち、その後の学習につなげようとしている。                                                                                                  | ○ | ○ | ○ | 2 |
| 2 東西両陣営の動向と1960年代の社会 | ①東西両陣営の社会がどのように変容したのかを、アメリカ合衆国と西ヨーロッパ諸国の関係およびソ連の東ヨーロッパ諸国に対する影響力などを通じて理解する。<br>②1960年代、人々は何をめざしてどのような運動を展開したのかについて理解する。                                                                            | ・諸資料から、1950年代のアメリカ合衆国や西ヨーロッパ諸国の動向およびアメリカと西ヨーロッパ諸国の関係の変化を理解している。<br>・諸資料から、ソ連の東ヨーロッパ諸国に対する影響力は、1950年代・60年代でどのように変化したのかについて理解している。<br>・教科書の本文や諸資料から、1960年代、人々は何をめざしてどのような運動を展開したのかについて理解している。                                                     | ・アメリカ合衆国と西ヨーロッパ諸国との関係の変化について考察し、表現している。<br>・ソ連の東ヨーロッパ諸国に対する影響力は、1950年代・60年代でどのように変化したのかについて考察し、表現している。<br>・差別撤廃運動や1968年の動きに着目して、1960年代、人々は何をめざしてどのような運動を展開したのかについて考察し、表現している。                                                                                          | ・1950年代・60年代の東西両陣営の社会の変容について、学習の見通しをもって取り組むとともに、自身の問いと関連づけて追究しようとしている。<br>・1960年代、人々は何をめざしてどのような運動を展開したのかについて、その運動が現在も問われている課題でもあるという視点を持ち、その後の学習につなげようとしている。                                                                                      | ○ | ○ | ○ | 2 |
| 3 軍拡競争から緊張緩和へ        | ①米・ソを中心とする宇宙開発競争や核軍拡の展開について、キューバ危機と部分的核実験禁止条約を事例として理解する。<br>②反核・平和運動の始まりと展開について、日本の事例を中心に考察する。<br>③デタント政策の展開と影響について理解する。<br>④核拡散防止条約の背景と展開、および原子力発電所事故などの事例について考察する。<br>⑤デタントが崩壊する過程について理解する。     | ・教科書の本文、図、諸資料などから核兵器の開発と抑制の動きを理解している。<br>・キューバ危機を示す風刺画や地図を読みとり、その意味を理解している。<br>・核保有国の拡散について理解している。<br>・第五福竜丸事件と第1回原水爆禁止世界大会開催との関連性について理解している。                                                                                                   | ・キューバ危機における米・ソ双方の思惑と動きの内容について考察している。<br>・キューバ危機を示す資料やスプートニク1号の打ち上げ成功が示す歴史的背景について考察し、表現している。<br>・核廃絶に関連する資料の背景について考察している。<br>・プラント首相がなぜゲッター跡地でひざまずいて謝罪したのか、その歴史的背景について考察している。                                                                                           | ・核兵器の開発とそれにともなう諸問題について、日本や世界の社会背景と結びつけて考察しようとしている。<br>・核兵器の廃絶を求める市民運動や、ホロコーストに対する謝罪などの背景にある歴史的意味について、他者と意見交換しようとしている。<br>・核兵器の開発と抑制の動きの歴史的背景について、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。                                                       | ○ | ○ | ○ | 2 |

|  |                 |                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                     |   |   |   |
|--|-----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|
|  | 4 地域連携の形成と展開    | ①西ヨーロッパ統合の背景と歴史的な過程について理解する。<br>②東南アジアにおける連携と、ASEANの性格の変化について理解する。<br>③アラブ・アフリカ・南北アメリカにおける連携の特徴について理解する。                                                                           | ・イギリスのEC加盟を妨害するドミゴール大統領の風刺画に描かれている内容を正しく読みとっている。<br>・ヨーロッパ＝アイデンティティと国民アイデンティティを示すグラフから、ヨーロッパ人意識の高い国と低い国とを理解している。<br>・ヨーロッパ統合の歩みと諸地域の統合の図を理解している。<br>・アラブ連盟加盟国の旗の図から、それぞれの国旗の表す意味について理解している。             | ・ヨーロッパ統合に関する様々な資料から、イギリスのEC加盟問題や、ヨーロッパ諸国の意識の違いについて、歴史的・経済的に考察している。<br>・諸資料から、トルコがヨーロッパ統合に受け入れられない歴史的背景について考察している。<br>・ASEANの結成と拡大の地図をみて、その特徴の変化とヨーロッパ統合との対比について考察している。<br>・アメリカ合衆国が中米地域に対して内政干渉をおこなう際に、どのような論理を掲げているのかを資料から読みとって表現することができている。   | ・ヨーロッパ人意識を高める手段や仕掛けにどのようなものがあるのかという問いについて、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。<br>・カール大帝とヨーロッパ統合の影響や関連性について、主体的に考察しようとしている。<br>・ASEANと世界のどの地域や国々が協力を深めているのかについて考察しようとしている。<br>・アフリカ統一機構の特徴とその限界について、資料をもとに考察しようとしている。                                      | ○                                                                                                                                                   | ○ | ○ | 2 |
|  | 5 計画経済とその波及     | ①第三世界がアメリカ合衆国とソ連のそれぞれの社会をどのようにみていたのかについて理解する。<br>②計画経済の特徴とその影響について理解する。<br>③1960年代以降に明らかとなるソ連の不安定化について理解する。<br>④中華人民共和国における社会主義体制の形成と大躍進運動について理解する。<br>⑤プロレタリア文化大革命の展開と特徴について理解する。 | ・教科書の本文、図、諸資料などから計画経済とその波及についての特徴を理解している。<br>・ガガーリンのポスターが、何年のどのようなできごとについてのものかを理解している。<br>・米・ソの耐久消費財所有の比較をおこなうことができている。<br>・中国の軽工業と重工業の推移を読みとることができている。                                                 | ・ポスター、絵、写真、アネクドットなどの諸資料から、ソ連社会の実態について考察を深めている。<br>・ネルーの「社会主義型社会」の資料を読みとり、それが生まれる背景を19世紀以来のイギリスとの関係のなから考察している。<br>・ソ連の経済成長率が鈍化してゆく背景や、中ソ対立における論点について理解し、考察している。<br>・中国の軽工業と重工業の比率の推移から、国民生活にどのような影響がおよんでいるかを考察するとともに、反右派闘争の背景と展開など政治面の推移を考察している。 | ・諸資料から、社会主義社会における特徴および価値観や理想像について見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。<br>・中国の大躍進政策に関する諸資料から、複数の歴史的なできごとを読みとり、現代の諸課題について新たな問いを立て、考察しようとしている。                                                                                                                | ○                                                                                                                                                   | ○ | ○ | 2 |
|  | 6 日本の高度経済成長     | ①日本の高度経済成長の要因について、世界経済や日本の社会構造、および政治との関わりから理解する。<br>②保守政権が経済成長を重視するようになった経緯や結果、および人々のとらえ方について理解する。<br>③日本の高度経済成長による生活や社会の変容について、新たに生じた課題などを理解する。                                   | ・諸資料をもとに高度経済成長へと至る経緯について整理し、国際的・国内的な諸条件にもとづいて高度経済成長が達成されたことを理解している。<br>・安保条約改定に関する資料などをもとに、保守政権の安全保障を争点とした政策の転換の結果、公共投資や社会保障の充実が進められたことを理解している。<br>・高度経済成長や政策が社会的格差に影響を与えた一方で、過疎化や公害などの問題が生じたことを理解している。 | ・諸資料から高度経済成長が国内の安価な労働力、国際経済の好調、安価なエネルギーの輸入に支えられていたことを考察している。<br>・資料の内容や時期に着目し新安条約をめぐる世論が変化した理由や、それが保守政権の政策に与えた影響について考察している。<br>・グラフや地図などの資料から、高度経済成長による産業構造の変化や人口の移動、それによる社会の変化を考察し表現している。                                                      | ・高度経済成長をもたらしたものとその影響について、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。<br>・諸資料の比較・分析を通して、日本の高度経済成長の意義や課題について自身の意見を構築しようとしている。<br>・経済成長や公害といった学習内容を活用し、現代の諸課題について新たな問いを立て、考察しようとしている。                                                                                | ○                                                                                                                                                   | ○ | ○ | 2 |
|  | 7 アジアのなかの戦後日本   | ①東アジア・東南アジアの国々との戦後処理や、国交正常化の経緯や影響について理解する。<br>②日本と東アジア諸国の関係や沖縄をめぐる課題が、アメリカ合衆国の東アジア政策の変化と関わりをもって展開したことを、資料から理解する。                                                                   | ・諸資料から中華民国・中華人民共和国および韓国との関係構築が、アメリカ合衆国の東アジア政策の影響を受けながら展開したことを理解している。<br>・諸資料から、東南アジア諸国への賠償を通じて日本企業の経済進出が進んだことを理解している。<br>・ベトナム戦争と関連して沖縄の祖国復帰運動が活発化し、沖縄返還が実現したことを理解している。                                 | ・諸資料から日本の役務賠償が日本と東南アジア諸国との経済的な結びつきに与えた影響を理解している。<br>・韓国・中国との関係改善に至るまでの課題や、その克服、新たな課題について考察している。<br>・冒頭の資料などから日中・日韓国交正常化や沖縄返還とアメリカ合衆国の東アジア政策との関連を考察し、表現している。                                                                                     | ・戦後処理を通じて、日本とアジアの国々がどのような関係を結んだのかという問いについて、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。<br>・現代の東アジアに関連する問いに対して、自身の答えを追究しようとしている。<br>・学習内容を活用し、現代の日本と東アジアの国々に関する諸課題について新たな問いを立て、追究しようとしている。                                                                         | ○                                                                                                                                                   | ○ | ○ | 2 |
|  | 第6章 世界秩序の変容と日本  | 1 石油危機                                                                                                                                                                             | ①ドル＝ショックの背景と内容、および影響について理解する。<br>②オイル＝ショックの背景と影響について理解する。<br>③大きな政府路線の行き詰まりについて理解する。<br>④日本における高度経済成長の終焉について理解する。<br>⑤日本の安定成長と経済摩擦の展開について理解する。                                                          | ・1973年頃の日本のスーパーマーケットの写真から、なぜこのような状況になったのかを理解している。<br>・ドル＝ショックを示す新聞記事、および米ドルに対する円相場の推移グラフの意味するところを理解している。<br>・原油価格の推移のグラフの意味するところを理解している。<br>・日本の実質経済成長率と物価上昇率推移のグラフ、およびその変化の理由を読みとることができている。                                                    | ・オイル＝ショックとドル＝ショックに関する諸資料を読みとり、考察している。<br>・原油価格の推移のグラフをふまえて、日本がそれにどのように対応したのかについて考察している。<br>・産業用ロボットによる無人工場の写真から、それを可能とした技術面と人的側面について考察している。<br>・日本と主要先進国の経済成長率の推移グラフを読みとり、イギリス、アメリカ合衆国、ドイツなどとの対比を通して考察している。                                                       | ・オイル＝ショックとドル＝ショックに関する諸資料を読みとるなかで、現代の諸問題や自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。<br>・日米貿易摩擦や主要通貨の対米ドル変動率の推移グラフなどの資料を読みとり、それが当時の日本と世界にどのような影響をおよぼしたのかについて考察しようとしている。 | ○ | ○ | ○ |
|  | 2 アジア諸地域の経済発展   | ①アジアNIESとASEANの成長と展開について理解する。<br>②東南アジアの開発独裁の実態について理解する。<br>③インドの政治と社会について理解する。<br>④西アジア諸国と石油および資源ナショナリズムの展開について理解する。                                                              | ・1970年～2000年代にかけてのアジアのGDP推移グラフを読みとることができている。<br>・インドとパキスタンにわかれてしまった行政区画を3つ選ぶことができている。                                                                                                                   | ・アジアNIESとASEANの成長に関する諸資料を、開発独裁の特徴と関連づけながら考察している。<br>・フィリピンにおける開発独裁の資料を読み、どのような国内勢力が支持しているのか、アメリカ合衆国が期待するものは何かについて考察している。<br>・西アジアにおける資源ナショナリズムや近代化政策の特徴を、イランを例にとって歴史的に考察している。                                                                   | ・インドの自動車の写真を参照しながら、どのようなメーカーのどのような車であるのかを主体的に調べて考察しようとしている。<br>・OPECの設立の図を分析して、OPECが結成された背景を類推し、OPECにおける発言力が強い地域を考察するなど見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。                                                                                                | ○                                                                                                                                                   | ○ | ○ | 2 |
|  | 3 市場開放と経済の自由化   | ①新自由主義の特徴について、イギリスや日本の事例から理解する。<br>②ブラザ合意以後の貿易自由化の展開について理解する。<br>③20世紀後半の環境問題について理解する。                                                                                             | ・創作四字熟語がそれぞれ何を意味するのかを理解している。<br>・多国籍企業と国外へ向けられる投資の図を読みとり、理解している。<br>・ウルグアイ＝ラウンドでめざされたことを理解している。                                                                                                         | ・新自由主義についての諸資料を用いながら、その推移の背景にある歴史事象について考察している。<br>・地球温暖化問題について、グラフと表から二酸化炭素排出量との相関関係について考察している。また、京都議定書の成果と課題について考察している。<br>・自動車メーカーの広告が狙いとしているところは何かの、考察している。                                                                                  | ・風刺画や資料文からわかることを読みとき、サッチャーがどのような政策を実施しようとしているのかを考察しようとしている。<br>・19世紀末の「大不況」と20世紀末の「地殻変動」の表から、「新しい資本主義国の確立」がなされた理由を、教科書の様々なページやほかの資料などを調べながら考察するなど、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。<br>・環境問題についての諸資料を参照しながら、自分自身や社会全体がどのようなことをおこなうべきなのかについて、考察しようとしている。 | ○                                                                                                                                                   | ○ | ○ | 2 |
|  | 4 情報技術革命とグローバル化 | ①マイクロエレクトロニクス（ME）産業や情報技術（IT）革命とも呼ばれる情報通信技術の発展により、21世紀には高度情報化社会・知識基盤社会が到来したことを理解する。<br>②高度情報社会が新たな課題を生み出し、従来の社会のあり方が変容をせまられていることを理解する。<br>③現代的諸課題の形成や課題解決について歴史的経緯をもとに考察する。         | ・19～21世紀に関する諸資料を読みとり、情報通信網が核時代の国際経済体制の構築に果たした役割を理解している。<br>・現代の情報技術革命が、軍事分野を主導とする端末の小型化やインターネットの普及によって達成されたことを理解している。<br>・高度情報通信によるグローバル経済の発展や情報化社会の形成が、新たな経済格差や産業構造、マスメディア等にも与えた影響を理解している。             | ・インターネット普及率や19世紀、20世紀の通信に関する諸資料から、通信網の整備と国際経済の発展との関連について考察している。<br>・グローバル経済の深化が世界規模の同時不況と結びつくことや、高度情報通信が発達した現在において生じている諸課題について考察している。<br>・高度情報化社会や知識基盤型社会と呼ばれる現代において、人々の考え方に与える変化、通信技術の開発や独占の弊害、普及の差異が社会にも与える影響について考察し、表現している。                  | ・情報技術革命は世界をどのように変えたのかという問いについて、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。<br>・諸資料の比較・分析を通して高度情報化社会や知識基盤型社会の到来について自身の意見を構築しようとしている。<br>・高度情報通信による諸課題について他者との意見交換を通し、考察しようとしている。                                                                                   | ○                                                                                                                                                   | ○ | ○ | 2 |

|  |  |                          |                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                      |   |   |   |   |
|--|--|--------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|
|  |  | 5 冷戦の終結とソ連の崩壊            | ①ソ連の改革と冷戦の終結について理解する。<br>②東ヨーロッパにおける社会主義体制の解体について理解する。<br>③ソ連の崩壊とロシア共和国の状況について理解する。                                                              | ・米・ソの戦略核兵器配備状況のグラフをみて、核兵器保有の推移を理解している。<br>・「社会主義勝利通り」という道路の名称がどのように変わったのかを理解している。<br>・独立国家共同体の地図をみて、それに加わっていない国々を理解している。                                                                             | ・アフガニスタン侵攻やゴルバチョフの改革、米・ソの戦略核兵器配備状況のグラフなどの諸資料を読みとるなかで、ソ連の社会がどのように変化したのかについて考察している。<br>・「ヨーロッパ＝ピクニック計画」の地図と写真を正しく理解したうえで、これが東ヨーロッパ諸国に与えた影響について考察している。                   | ・ゴルバチョフの改革に関連した風刺画などの諸資料を読みとき、ソ連解体につながる歴史的背景について考察しようとしている。<br>・ソ連解体後の地図や、経済の停滞を示す2枚の風刺画を見比べるなかで意味内容の変化について考察し、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。                                           | ○ | ○ | ○ | 2 |
|  |  | 6 現代の東アジア                | ①中国で改革・開放路線が採用され急速な経済発展が進み、東アジアにおける地位が変化したことを理解する。<br>②韓国や台湾の民主化や、北朝鮮の体制、国際社会との関係について理解する。<br>③高度経済成長終焉後の日本の状況について、成長する東アジア諸国との関連のなかで考察する。       | ・グラフを読みとり、中国のGDPの伸長と、改革・開放政策、資本主義諸国との関係改善との関わりを理解している。<br>・教科書の本文や諸資料から台湾・韓国の民主化の展開や、中国、北朝鮮との関係について理解している。<br>・東アジア諸国が経済成長を達成する一方で、高度経済成長終焉後の日本が抱えた課題や東アジア諸国との関わりの変化について理解している。                      | ・写真やグラフなどの諸資料から、中国の経済成長や国際社会における地位の変化について考察している。<br>・グラフから韓国と北朝鮮の経済状況の差異の広がりやその時期の政策の変化を関連づけて考察している。<br>・諸資料から戦後50年の時期までの日本の変化や東アジアにおける立場の変化について考察し、表現している。           | ・今日の東アジアの国々にはどのような課題があるのかという問いについて、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。<br>・東アジア諸国の課題と現状から、どのような取り組みが必要か考察しようとしている。<br>・これからの日本と東アジア諸国の関係はどのようなべきか、他者との意見交換をおこないつながり構築し、考察しようとしている。           | ○ | ○ | ○ | 2 |
|  |  | 7 東南アジア・アフリカ・ラテンアメリカの民主化 | ①東南アジア諸国の民主化の経過、および日本のPKO活動について理解する。<br>②南アフリカのアパルトヘイト政策の内容と撤廃までの経過を理解する。<br>③ラテンアメリカ諸国の民主化の経過とアメリカとの関係について理解する。                                 | ・ノーベル平和賞の受賞理由が多様化していることから、様々な平和活動をしている人物・団体がいることを理解している。<br>・東南アジア諸国の民主化と現状について理解している。<br>・南アフリカのアパルトヘイト政策撤廃までの経過を理解している。<br>・ラテンアメリカ諸国の民主化とアメリカ合衆国との関係について理解している。                                   | ・諸資料などを読みとり、各国の民主化における国際世論の影響について考察している。<br>・各国の民主化における日本の肯定的・否定的な影響についてそれぞれ考察している。<br>・各国の民主化の成果と課題について整理し、表現している。                                                   | ・各国の民主化の課題と現状をふまえて、どのような活動が必要かについて考察しようとしている。<br>・今後の日本の国際貢献はどうあるべきか考察しようとしている。<br>・東南アジア・アフリカ・ラテンアメリカの民主化について、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。                                           | ○ | ○ | ○ | 2 |
|  |  | 8 地域統合の拡大と変容             | ①各地域統合の経済的特徴について理解する。<br>②EUの成立までの経過と課題について理解する。<br>③世界での自由貿易協定（NAFTA・FTA・TPP・WTOなど）の内容と課題について理解する。<br>④アジアでの自由貿易協定の動きと日本との関係を理解する。              | ・各地域統合を比較しながら、その経済的特徴を理解している。<br>・EUの成立までの経過と課題（財政危機・移民・難民・ボビュリズムなど）について理解している。<br>・各自由貿易協定の内容および貿易の自由化の課題（雇用の喪失など）を理解している。<br>・各地域統合および自由貿易協定と日本との関係を理解している。                                        | ・諸資料などを読みとり、各地域統合・自由貿易協定の課題について考察している。<br>・その諸課題と日本との関係についても考察している。                                                                                                   | ・各地域統合・自由貿易協定の課題に対する解決手段について、自身の問題として考察しようとしている。<br>・今後の国際社会はどのようにあるべきか、自身の意見を表現しようとしている。<br>・地域統合が人々や社会におよぼす影響について、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。                                      | ○ | ○ | ○ | 2 |
|  |  | 9 地域紛争と国際社会              | ①冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解する。<br>②紛争の解決に国際機構や日本が果たした役割について理解する。<br>③冷戦終結から現代に至るまでの諸課題の形成について整理し、今後の課題解決について考察する。                                       | ・安全保障理事会に関する資料などから、冷戦終結後の地域紛争の拡散やそれへの対応について理解している。<br>・冷戦終結後は地域の小規模紛争が拡大するとともに、国連機構が機能する場面と機能しない場面があったことを理解している。<br>・冷戦終結後に日米同盟の意義が変質し、日米の協力関係の強化や新たな国際貢献のあり方が求められるようになったこと、それに対し様々な議論が生じたことを理解している。 | ・冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを考察し、表現している。<br>・小規模紛争の拡大や、国連機構の機能する場面と機能しない場面が生じた原因について考察している。<br>・情報通信技術の発達や普及などの社会の変化が、アラブの民主化運動の拡散やテロ組織の活動と関連していることを考察し、表現している。             | ・冷戦の終結は協調と平和をもたらしたのかという問いについて、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。<br>・深刻化する地域紛争の拡大が社会に与える影響について、自身の課題として考察しようとしている。<br>・歴史的な背景をふまえながら、今後の日本の安全保障政策や国際貢献といった課題にどのように取り組むべきか、自身の意見を表現しようとしている。 | ○ | ○ | ○ | 1 |
|  |  | 10 現代と私たち                | ①歴史的経緯をふまえて、現代的な諸課題を理解する。<br>②諸資料から現代的課題の所在や、それらの原因や背景を分析するための手立てを理解する。<br>③現代的諸課題への問題意識をもち、問いを表現できるようにする。                                       | ・世界の人口問題について、地域や経済状況の違いと関連させて理解している。<br>・エネルギー開発や自由貿易、核軍縮など、20世紀後半に推進された方法や考え方が21世紀初頭に見直されるなど、決して単線的に物事が進行しているわけではないことを理解している。<br>・新たな技術や秩序の登場が、従来の課題解決とともに社会の動揺や反動を生じさせることがあることを理解している。             | ・地図やグラフを組みあわせ、諸課題の地域的な偏りや特徴を適切に考察している。<br>・グラフを読みとったり、比較したりしながら、今後の日本社会の動向やそれによって生じる社会の影響について考察している。<br>・これからの社会が直面する課題や、その望ましい解決策について、歴史上の類似事例を根拠としてあげながら考察し、表現している。 | ・自身の興味・関心に従って主題を選択・設定しようとしている。<br>・これまでの学習を振り返りながら自身で現代的な諸課題に対する問いを設定し、追究しようとしている。<br>・資料の読みとりや考察の結果などを他者と共有し、相手や自身の考察を一層深めようとしている。                                                                  | ○ | ○ | ○ | 1 |
|  |  | 現代的な諸課題の形成と展望            | ①歴史的な見方や考え方を生かして、現代的な諸課題を考察する方法を理解する。<br>②現在の課題解決や将来を構想するうえで、歴史的な見方・考え方を活用することが有効であることを理解する。<br>③現代的諸課題に対して、歴史的な問いを立て、これまでの学習をもとに考察し、表現できるようにする。 | ・諸資料から問いを立てることができることや、経緯や背景、共通点や相違点、担い手といった視点から整理することが有効であることを理解している。<br>・身近な課題を考察するうえで歴史的な見方や考え方を活用することが、現在の課題解決や私たちの将来を構想するうえで大切なことを理解している。                                                        | ・事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較し相互に関連づけたり、現代的な諸課題を展望したりするなどして、主題について考察、構想し、表現している。<br>・資料に対し、その時代や資料を記録したものの立場などを文脈に応じて分析し、資料の意義を考察している。                     | ・自身で問いを立て、分析の方法や視点を設定し、その答えを追究しようとしている。<br>・分析や考察の結果を他者と共有したり、比較したりして、自身の考えをより良いものに改善しようとしている。<br>・より良い社会の実現を視野に歴史的な見方・考え方をいかそうとしている。                                                                | ○ | ○ | ○ | 3 |
|  |  | 定期考査                     |                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                      | ○ | ○ | ○ | 1 |

都立拝島高等学校 令和7年度 教科  
教 科： 地理歴史 科 目： 歴史基礎  
対象学年組： 第1 2 学年 1. 2. 4. 7組  
教科担当者： 松本

地理歴史 科目 歴史基礎  
単位数： 2 単位

使用教科書：（ 山川出版社 現代の歴史総合 みる・読みとく・考える ）

教科 地理歴史 の目標：

【知識及び技能】

近現代の歴史の変化に関わる諸事情について、世界とその他の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成にかかわる近現代の歴史を理解する。また、資料やデータから歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

近現代の歴史の変化に関わる諸事情について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追及、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 歴史基礎 の目標：

| 【知識及び技能】                                                                                                               | 【思考力、判断力、表現力等】                                                                                                                                              | 【学びに向かう力、人間性等】                                                                                                                                  |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 近現代の歴史の変化に関わる諸事情について、世界とその他の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成にかかわる近現代の歴史を理解する。また、資料やデータから歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。 | 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 | 近現代の歴史の変化に関わる諸事情について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追及、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 |

|             | 単元の具体的な指導目標                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 指導項目・内容                                                         | 評価規準                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 知 | 思 | 態 | 配当<br>時数 |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|----------|
| 1<br>学<br>期 | 【知識・技能】<br>・産業革命がなぜイギリスから始まったのか理解する。<br>・産業革命が当時の人々の生活や社会に及ぼした変化を理解する。<br>・諸資料からイギリス産業革命の背景やその影響を理解する。<br>・諸国の産業革命の背景や経過について比較し、とくに後発資本主義国の特徴について理解する。<br>・アメリカ独立宣言の資料を読み取り、そこで述べられている政府の存在意義を理解する。<br>・アメリカ独立革命がこの時期に起こった背景について理解する。<br>【思考・判断・表現】<br>・産業革命による労働の質の変化について考察し、表現する。<br>・産業革命が人の生活に与えた影響を踏まえ、豊かさとは何かについて考察する。<br>【主体的に学習に取り組む態度】<br>・産業革命の進展について、見通しを持って課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追及しようとする。 | ・産業革命<br>・アメリカ独立革命                                              | 【知識・技能】<br>・諸資料からイギリス産業革命の背景やその影響を理解している。<br>・諸国の産業革命の背景や経過について比較し、とくに後発資本主義国の特徴について理解している。<br>・アメリカ独立宣言の資料を読み取り、そこで述べられている政府の存在意義を理解している。<br>・アメリカ独立革命がこの時期に起こった背景について理解している。<br>【思考・判断・表現】<br>・産業革命による労働の質の変化について考察し、表現している。<br>・産業革命が人の生活に与えた影響を踏まえ、豊かさとは何かについて考察している。<br>【主体的に学習に取り組む態度】<br>・産業革命の進展について、見通しを持って課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追及しようとしている。                                                                                                                                                                                                          | ○ | ○ | ○ | 8        |
|             | 定期考査                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | ○ | ○ | ○ | 1        |
|             | 【知識・技能】<br>・フランス人権宣言の資料を読み取り、そこで述べられている政府の存在意義を理解する。<br>・ラテンアメリカ諸国の独立の背景や経緯について理解する。<br>・条約改正の経過及び日清戦争との関係について理解する。<br>・日清・日露戦争を通して、日本国民の対外意識が変化したことについて理解する。<br>・日露戦争における日本の勝利が、アジア諸民族の独立や近代化の動きに刺激を与えたことについて理解する。<br>【思考・判断・表現】<br>・アメリカ独立革命とフランス革命の共通点と相違点について理解する。<br>・フランス革命やナポレオンの進出がほかのヨーロッパ諸国に与えた影響について考察する。<br>・条約改正を通して、国民が何を望み、一方で何を危惧したのかについて考察し、表現する。<br>・日露講和会議における両国の主張・立場の違いと妥協点について考察する。 | ・フランス革命<br>・日清戦争<br>・日露戦争                                       | 【知識・技能】<br>・フランス人権宣言の資料を読み取り、そこで述べられている政府の存在意義を理解している。<br>・ラテンアメリカ諸国の独立の背景や経緯について理解している。<br>・条約改正の経過及び日清戦争との関係について理解している。<br>・日清・日露戦争を通して、日本国民の対外意識が変化したことについて理解している。<br>・日露戦争における日本の勝利が、アジア諸民族の独立や近代化の動きに刺激を与えたことについて理解している。<br>【思考・判断・表現】<br>・アメリカ独立革命とフランス革命の共通点と相違点について理解している。<br>・フランス革命やナポレオンの進出がほかのヨーロッパ諸国に与えた影響について考察している。<br>・条約改正を通して、国民が何を望み、一方で何を危惧したのかについて考察し、表現している。<br>・日露講和会議における両国の主張・立場の違いと妥協点について考察している。<br>【主体的に学習に取り組む態度】<br>・フランス革命に関する風刺画を読み取る中で、内容に関心を持ち、風刺画の意味について自分なりに考察しようとしている。<br>・フランス国歌の歌詞を読み取り、なぜそのような激烈な内容になったのか、主体的に追及しようとしている。 | ○ | ○ | ○ | 8        |
|             | 定期考査                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | ○ | ○ |   | 1        |
|             | 【知識・技能】<br>・ヴェルサイユ条約やワシントン会議における3条約の内容について理解する。<br>・ヴェルサイユ条約やワシントン会議における3条約の内容について理解する。<br>・第一次世界大戦後の世界の経済状況、特に日本の戦後恐慌の原因と                                                                                                                                                                                                                                                                                | ・ヴェルサイユ体制とワシントン体制<br>・世界恐慌世界恐慌の時代<br>・ファシズムの伸長と共産主義<br>・日中戦争への道 | 【知識・技能】<br>・ヴェルサイユ条約やワシントン会議における3条約の内容について理解している。<br>・第一次世界大戦後の世界の経済状況、特に日本の戦後恐慌の原因と経過について理解している。<br>・アメリカ合衆国の恐慌と世界がどのように結びついているか、また、恐慌に向けた各国の財政政策について理解している。<br>・ドイツのヒトラー政権が大眾から支持を受けた社会的背景、日本・ドイツ・イタリアが連合した背景について理解している。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |   |   |   |          |

|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |   |   |    |
|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|----|
| 2<br>学<br>期 | <p>証<br/>過について理解する。<br/>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・パリ講和会議，ワシントン会議の各</li><li>国の立場の違いについて風刺画や史料文から考察する。</li><li>・現在の日本の経済状況と当時の経済状況を相互比較し、考察、表現する。</li><li>・日本や世界の大衆社会の発展が政治にどのように影響を与えたかを考察する。</li></ul> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・戦間期の各国の社会状況経済状況</li></ul> <p>定期考査</p>                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | <ul style="list-style-type: none"><li>・満州事変以降の戦線拡大の諸要因について理解している。</li></ul> <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・パリ講和会議，ワシントン会議の各国の立場の違いについて風刺画や史料文から考察している。</li><li>・なぜ繁栄の最盛期を迎えていたアメリカ合衆国がこのような事態になってしまったのかを写真や諸資料を通して考察している。</li><li>・ファシズムの伸長の要因についてグループワークやペアワークを通して理解・考察し、表現することができている。</li><li>・日本軍部の動きについて当時の情勢を整理し、考察することができている。</li></ul> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・戦間期の各国の社会状況経済状況について、見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追求しようとしている。</li></ul> | ○                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | ○ | ○ | 14 |
|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | ○                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | ○ | ○ | 1  |
|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・諸資料から、第二次世界大戦の推移、凄惨かつ長期化した背景とその情勢について理解する。</li><li>・諸資料から、大戦末期の日本の状況とそれを取り巻く米・英・ソの認識、原子爆弾の投下や帝都空襲、沖縄戦などの背景について理解する。</li><li>・民衆動員が女性や植民地など広大な範囲で展開されたこと、および戦争の被害、組織的虐待などで一般市民の大規模な犠牲が生じたことを理解するとともに、それらの被害に対して一般民衆はどのように立ち向かっていったのかを史料から読み解く。</li></ul> <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ヨーロッパで始まった第二次世界大戦にアメリカ合衆国と日本はどのように関わったのか、開戦を防ぐことはできなかったのかを考察し、表現する。</li><li>・グループワークを通し、第二次世界大戦に関与した国々の思惑や狙いを考察し、表現する。</li><li>・日本における民間被害の実態を読み解き、その特徴や規模について整理、考察する。</li></ul> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・第二次世界大戦の展開や影響について、見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追求する。</li></ul> <p>定期考査</p> | <ul style="list-style-type: none"><li>・第二次世界大戦の展開</li><li>・第二次世界大戦下の社会</li></ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・諸資料から、第二次世界大戦の推移、凄惨かつ長期化した背景とその情勢について理解している。</li><li>・諸資料から、大戦末期の日本の状況とそれを取り巻く米・英・ソの認識、原子爆弾の投下や帝都空襲、沖縄戦などの背景について理解している。</li><li>・民衆動員が女性や植民地など広大な範囲で展開されたこと、および戦争の被害、組織的虐待などで一般市民の大規模な犠牲が生じたことを理解するとともに、それらの被害に対して一般民衆はどのように立ち向かっていったのかを史料から読み解くことができる。</li></ul> <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ヨーロッパで始まった第二次世界大戦にアメリカ合衆国と日本はどのように関わったのか、開戦を防ぐことはできなかったのかを考察し、表現している。</li><li>・グループワークを通し、第二次世界大戦に関与した国々の思惑や狙いを考察し、表現している。</li><li>・日本における民間被害の実態を読み解き、その特徴や規模について整理、考察している。</li></ul> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・戦間期の各国の社会状況経済状況について、見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追求しようとしている。</li></ul> | ○ | ○ | ○  |
|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | ○                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | ○ |   | 1  |
|             | <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ペアワーク等の活動を通して、国際連合の形成過程や目的、その実情や課題を国際連盟と比較しつつ理解する。</li><li>・アメリカ合衆国の影響、女性や地主の地位の変化、戦争犯罪人の処罰、日本国憲法成立過程など戦前の政治・社会体制の変革が求められた理由や経緯を理解する。</li><li>・冷戦の始まりに関する歴史的背景や展開、核開発競争が今後どのように行われていくのかを理解する。</li><li>・この当時のアメリカ合衆国が</li></ul> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・第二次世界大戦の展開や影響について、見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追求する。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・国際連合と国際経済体制</li><li>・占領と戦後改革</li><li>・冷戦の始まりと東アジア諸国の動向</li><li>・日本の独立と日米安全保障条約</li><li>・現代と私たち</li></ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ペアワーク等の活動を通して、国際連合の形成過程や目的、その実情や課題を国際連盟と比較しつつ理解している。</li><li>・アメリカ合衆国の影響、女性や地主の地位の変化、戦争犯罪人の処罰、日本国憲法成立過程など戦前の政治・社会体制の変革が求められた理由や経緯を理解している。</li><li>・冷戦の始まりに関する歴史的背景や展開、核開発競争が今後どのように行われていくかを理解している。</li><li>・この当時のアメリカ合衆国が行った政策と関連付けながら、日米安全保障条約の意義課題について理解している。</li><li>・市民・産業革命や明治維新など、1学期の学習範囲以前の社会的重</li></ul>                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |   |   |    |

|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |   |   |   |    |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|----|
| 3<br>学<br>期 | <p>・このころのアメリカ合衆国が行った政策と関連付けながら、日米安全保障条約の意義と課題について理解する。</p> <p>・市民・産業革命や明治維新など、1学期の学習範囲以前の歴史的事象</p> <p>について、これまでの学習を振り返り、理解する。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>・アメリカ合衆国が第二次世界大戦前と比較してどのような役割を果たしたのか考察し、表現する。</p> <p>・戦後の改革が今の私達の生活にどのように結びついているのかを考察し、表現する。</p> <p>・アメリカ合衆国を中心とする資本主義陣営とソ連を中心とする社会主義陣営の動向を結びつけたり比較したりして、冷戦の表面化とその特徴を考察し、表現している。</p> <p>・独立後の日本の米軍基地および復帰前の米軍基地をめぐる問題の共通点と相違点を本校付近に位置している横田基地を参考に考察する。</p> <p>・市民・産業革命や明治維新など、1学期の学習範囲以前の歴史的事象</p> <p>について、多面的・多角的に考察し、それを基に議論したり説明を行うことができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>・戦後の国際情勢について、日本を中心に見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追求する。</p> <p>・より良い社会の実現を視野に歴史的な見方・考え方を生かそうとする。</p> | <p>・このころの日本が、日米安全保障条約の意義と課題について、これまでの学習を振り返り、理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>・アメリカ合衆国が第二次世界大戦前と比較してどのような役割を果たしたのか考察し、表現する。</p> <p>・戦後の改革が今の私達の生活にどのように結びついているのかを考察し、表現する。</p> <p>・アメリカ合衆国を中心とする資本主義陣営とソ連を中心とする社会主義陣営の動向を結びつけたり比較したりして、冷戦の表面化とその特徴を考察し、表現している。</p> <p>・独立後の日本の米軍基地および復帰前の米軍基地をめぐる問題の共通点と相違点を本校付近に位置している横田基地を参考に考察する。</p> <p>・市民・産業革命や明治維新など、1学期の学習範囲以前の歴史的事象について、多面的・多角的に考察し、それを基に議論したり説明を行うことができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>・戦後の国際情勢について、日本を中心に見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追求する。</p> <p>・より良い社会の実現を視野に歴史的な見方・考え方を生かそうとする。</p> | ○ | ○ | ○ | 20 |
|             | 定期考査                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | ○ | ○ |   | 1  |
|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |   |   |   | 70 |

年間授業計画

都立拝島 高等学校 令和7年度 教科 数学 科目 数学Ⅱ

教 科： 数学 科 目： 数学Ⅱ 単位数： 4 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 7 組

教科担当者： ( 1 ～ 6 組： 古家、吉村、橋本 ) ( 7 組： 西山、吉村 )

使用教科書： ( 新編数学Ⅱ 数研出版 )

教科 数学 の目標：

【知 識 及 び 技 能】基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】事象を論理的に考察する力、事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】活用しようとする態度、粘り強く考え論拠に基づいて判断しようとする力の基礎を養う。

科目 数学Ⅱ の目標：

| 【知識及び技能】                                                                                                              | 【思考力、判断力、表現力等】                                                                                                                                                                                                    | 【学びに向かう力、人間性等】                                                                                        |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 | 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力。座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力。関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力。関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 | 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 |

|             | 単元の具体的な指導目標                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 指導項目・内容                                                                 | 評価規準                                                                                                                                                                   | 知 | 思 | 態 | 配当<br>時数 |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|----------|
| 1<br>学<br>期 | 第1章 式と証明<br>【知識及び技能】<br>式の形に着目して変形し、3次式の因数分解の公式を適用する形にすることができる。<br>【思考、判断力、表現力】<br>多項式の割り算の結果を等式で表して考えることができる。<br>【学びに向かう力、人間性】<br>恒等式の性質を理解し、具体的な問題に取り組もうとする。                                                                                                                               | 第1節 式と証明<br>1 3次式の展開と因数分解<br>2 二項定理<br>3 多項式の割り算<br>4 分数式とその計算<br>5 恒等式 | 【知識・技能】<br>二項定理を利用して、展開式やその項の係数を求めることができる。<br>【思考・判断・表現】<br>分数式を分数と同じように約分、通分して扱うことができる。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>因数分解の検算に展開を利用しようとする態度がある。                                | ○ | ○ | ○ | 9        |
|             | 第2章 複素数と方程式<br>【知識及び技能】<br>複素数の相等の定義を理解している。<br>【思考、判断力、表現力】<br>判別式を利用して、2次方程式の解の種類を判別することができる。解と係数の関係を利用して、解の和などの値を求めることができる。<br>【学びに向かう力、人間性】<br>複素数の範囲で2次方程式を解けることに興味をもち、問題に取り組もうとする。                                                                                                     | 第1節 複素数と2次方程式の解<br>1 複素数とその計算<br>2 2次方程式の解<br>3 解と係数の関係                 | 【知識・技能】<br>複素数の四則計算の結果は複素数であることを理解している。<br>【思考・判断・表現】<br>判別式を利用して、2次方程式の解の種類を判別することができる。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>2次式を複素数の範囲で因数分解することに興味をもち、問題に取り組もうとする。                   | ○ | ○ | ○ | 12       |
|             | 定期考査                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                         |                                                                                                                                                                        | ○ | ○ |   | 1        |
|             | 第2章 複素数と方程式<br>【知識及び技能】<br>剰余の定理を利用して、多項式を1次式や2次式で割ったときの余りを求めることができる。<br>【思考、判断力、表現力】<br>高次方程式が解 $\alpha$ をもつことを、式を用いて表現できる。<br>【学びに向かう力、人間性】<br>1の3乗根の性質に興味・関心をもち、具体的な問題に取り組もうとする。                                                                                                          | 第2節 高次方程式<br>4 剰余の定理と因数分解<br>5 高次方程式                                    | 【知識・技能】<br>剰余の定理を利用して、多項式を1次式や2次式で割ったときの余りを求めることができる。<br>【思考・判断・表現】<br>高次方程式が解 $\alpha$ をもつことを、式を用いて表現できる。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>1の3乗根の性質に興味・関心をもち、具体的な問題に取り組もうとする。     | ○ | ○ | ○ | 9        |
|             | 第3章 図形と方程式<br>【知識及び技能】<br>$x$ 軸に垂直な直線は $y=mx+n$ の形に表せないことを理解している。与えられた条件を満たす円の方程式の求め方を理解している。<br>【思考、判断力、表現力】<br>直線が $x$ 、 $y$ の1次方程式で表されることを理解している。円と直線の共有点の個数を、2次方程式の実数解の個数で考察することができる。<br>【学びに向かう力、人間性】<br>図形の問題を座標平面上で代数的に解決する解法のよさを知ろうとする。<br>点を満たす条件から得られた方程式がどのような図形を表しているかを考察しようとする。 | 第1節 点と直線<br>1 直線上の点<br>2 平面上の点<br>3 直線の方程式<br>4 2直線の関係                  | 【知識・技能】<br>数直線上において、2点間の距離、線分の内分点、外分点の座標が求められる。<br>【思考・判断・表現】<br>図形の性質を証明する際に、計算が簡単になるように座標軸を適切に設定できる。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>2直線の交点を通る直線の方程式に興味・関心をもち、具体的な問題に利用しようとする。  | ○ | ○ | ○ | 8        |
|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 第2節 円<br>5 円と方程式<br>6 円と直線<br>7 2つの円                                    | 【知識・技能】<br>2つの円の位置関係と、中心間の距離と半径から、円の方程式を求めることができる。<br>【思考・判断・表現】<br>2つの円の位置関係を、中心間の距離と半径の関係で考察することができる。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>2つの円の交点を通る円の方程式に興味・関心をもち、具体的な問題に利用しようとする。 | ○ | ○ | ○ | 8        |
|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 第3節 軌跡と領域<br>8 軌跡と方程式<br>9 不等式の表す領域                                     | 【知識・技能】<br>連立不等式の表す領域を図示することができる。<br>【思考・判断・表現】<br>不等式の満たす解を、座標平面上の点の集合としてみることができる。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>少し複雑な不等式の表す領域についても、興味をもち、取り組もうとする。                            | ○ | ○ | ○ | 4        |
|             | 定期考査                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                         |                                                                                                                                                                        | ○ | ○ |   | 1        |
|             | 第4章 三角関数<br>【知識及び技能】<br>単位円周上の点の座標を、三角関数を用いて表すことができる。加法定理を利用して、種々の三角関数の値を求めることができる。<br>【思考、判断力、表現力】<br>三角比の定義を、三角関数の定義に一般化することができる。角を弧度法で表した場合にも、加法定理が適用できる。<br>【学びに向かう力、人間性】<br>弧度法に興味をもち、角度の換算に取り組もうとする。加法定理の証明について、一般角に対しても成り立つことに興味をもち、考察しようとする。                                         | 第1節 三角関数<br>1 角の拡張<br>2 三角関数<br>3 三角関数のグラフ<br>4 三角関数の性質<br>5 三角関数を含む方程式 | 【知識及び技能】<br>扇形の弧の長さや面積の公式を理解している。<br>【思考、判断力、表現力等】<br>単位円上の点の動きから、三角関数のグラフを考えることができる。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>周期関数に興味をもち、その性質を調べようとする。                                    | ○ | ○ | ○ | 12       |
|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 第2節 加法定理<br>6 加法定理<br>7 加法定理の応用                                         | 【知識及び技能】<br>三角関数の合成について理解している。<br>【思考、判断力、表現力等】                                                                                                                        |   |   |   |          |

|             |                                                                                                                                                                                                              |                                              |                                                                                                                                                                        |   |   |   |     |
|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|-----|
| 2<br>学<br>期 |                                                                                                                                                                                                              |                                              | 2倍角の公式を利用して、三角関数を含むやや複雑な方程式・不等式の角を統一して考えることができる。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>同じ周期をもつ2つの関数 $y=\sin x$ と $y=\cos x$ を合成するとそのグラフは位相がずれた正弦曲線になることに興味・関心をもつ。                       | ○ | ○ | ○ | 6   |
|             | 第5章 指数関数と対数関数<br>【知識・技能】<br>指数関数のグラフの概形、特徴を理解している。<br>【思考・判断・表現】<br>指数関数の増減によって、大小関係や不等式・方程式を考察することができる。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>累乗根の性質に興味を示し、具体的に証明しようとする。                                                     | 第1節 指数関数<br>1 指数の拡張<br>2 指数関数                | 【知識・技能】<br>指数関数のグラフの概形、特徴を理解している。<br>【思考・判断・表現】<br>指数関数の増減によって、大小関係や不等式・方程式を考察することができる。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>累乗根の性質に興味を示し、具体的に証明しようとする。                                | ○ | ○ | ○ | 8   |
|             | 定期考査                                                                                                                                                                                                         |                                              |                                                                                                                                                                        | ○ | ○ |   | 1   |
|             | 第5章 指数関数と対数関数<br>【知識・技能】<br>対数の性質に基づいた種々の対数の値の計算ができる。<br>【思考・判断・表現】<br>対数と指数の関係から、両者のグラフが互いに直線 $y=x$ に関して対称であるという見方ができる。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>現実世界の問題を、常用対数を用いて考察しようとする。                                     | 第2節 対数関数<br>3 対数とその性質<br>4 対数関数<br>5 常用対数    | 【知識・技能】<br>対数の性質に基づいた種々の対数の値の計算ができる。<br>【思考・判断・表現】<br>対数と指数の関係から、両者のグラフが互いに直線 $y=x$ に関して対称であるという見方ができる。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>現実世界の問題を、常用対数を用いて考察しようとする。                | ○ | ○ | ○ | 12  |
|             | 第6章 微分法と積分法<br>【知識・技能】<br>微分係数の図形的意味を理解している。<br>【思考・判断・表現】<br>導関数を表す種々の記号を理解していて、それらを適切に使うことができる。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>曲線外の点から曲線に引いた接線の方程式を求めようとする。                                                          | 第1節 微分法<br>1 微分係数<br>2 導関数とその計算<br>3 接線の方程式  | 【知識・技能】<br>微分係数の図形的意味を理解している。<br>【思考・判断・表現】<br>導関数を表す種々の記号を理解していて、それらを適切に使うことができる。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>曲線外の点から曲線に引いた接線の方程式を求めようとする。                                   | ○ | ○ | ○ | 16  |
| 定期考査        |                                                                                                                                                                                                              |                                              |                                                                                                                                                                        | ○ | ○ |   | 1   |
| 3<br>学<br>期 | 第6章 微分法と積分法<br>【知識及び技能】<br>導関数を利用して、関数の極値を求めたり、グラフをかいたりすることができる。不定積分の定義や性質を理解し、それを利用する不定積分の計算方法を理解している。<br>【思考・判断力、表現力等】<br>微分法の逆演算としての不定積分を考察することができる。<br>【学びに向かう力、人間性】<br>積分法が微分法の逆演算であることから、不定積分を求めようとする。 | 第2節 関数の変化<br>4 関数の増減と極大・極小<br>5 関数の増減・グラフの応用 | 【知識・技能】<br>導関数を利用して、関数の極値を求めたり、グラフをかいたりすることができる。<br>【思考・判断・表現】<br>方程式の実数解の個数を、関数のグラフと $x$ 軸の共有点の個数に読み替えて考察できる。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>方程式や不等式を関数的視点で捉え、微分法を利用して解決しようとする。 | ○ | ○ | ○ | 14  |
|             |                                                                                                                                                                                                              | 第3節 積分法<br>6 不定積分<br>7 定積分<br>8 定積分と面積       | 【知識・技能】<br>不定積分の定義や性質を理解し、それを利用する不定積分の計算方法を理解している。<br>【思考・判断・表現】<br>面積を求める際には、グラフの上下関係、積分範囲などを、図をかいて考察している。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分を用いて求めようとする。      | ○ | ○ | ○ | 17  |
|             | 定期考査                                                                                                                                                                                                         |                                              |                                                                                                                                                                        |   | ○ | ○ | 1   |
|             |                                                                                                                                                                                                              |                                              |                                                                                                                                                                        |   |   |   | 合計  |
|             |                                                                                                                                                                                                              |                                              |                                                                                                                                                                        |   |   |   | 140 |

年間授業計画

都立拝島高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 数学 科目 数学B

教 科： 数学 科 目： 数学B 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 2 組

教科担当者：（古家）

使用教科書：（新編数学B 数研出版）

教科 数学 の目標：

- 【知 識 及 び 技 能】基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする
- 【思考力、判断力、表現力等】事象を論理的に考察する力、事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】活用しようとする態度、粘り強く考え論拠に基づいて判断しようとする力の基礎を養う。

科目 数学B の目標：

| 【知識及び技能】                                              | 【思考力、判断力、表現力等】                                                                                                                                    | 【学びに向かう力、人間性等】                                       |
|-------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|
| ・数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。               | 離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を身に付けている。 | ・数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的根拠に基づき判断しようとしている。 |
| ・数学と社会生活の関わりについて認識を深めている。                             |                                                                                                                                                   | ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。              |
| ・事象を数学科したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることにに関する技能を身に付けている。 |                                                                                                                                                   |                                                      |

|             | 単元の具体的な指導目標                                                                                                                                                     | 指導項目・内容                                                                | 評価規準                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 知 | 思 | 態 | 配当<br>時数 |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|----------|
| 1<br>学<br>期 | 【知識及び技能】<br>数列やその一般項の表し方について理解する。<br>等差数列・等比数列を理解し、それらの和を求められるようにする。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>数列を様々な事象の考察に役立てようとする<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>等比数列・等差数列の和の公式を導こうとする意欲がある。 | 第1章 数列<br>第1節 等差数列と等比数列・数列と一般項<br>・等差数列<br>・等差数列の和<br>・等比数列<br>・等比数列の和 | 【知識及び技能】<br>数列の定義・表記について理解している。等差・等比数列の公差・公比、一般項などを理解している。等差・等比数列の和の公式を適切に理解して求めることができる。<br>【思考力、判断力、表現力】<br>数の並び方からその規則性を推定して、数列の一般項を考察できる。等差・等比数列の和を工夫して求める方法について考察できる。<br>【主体的に学習に取り組む態度】<br>数の並びに興味をもち、その規則性を発見しようとする意欲がある。等差・等比数列の和を工夫して求める方法に興味をもち、公式を導こうとする意欲がある。                                                           | ○ | ○ | ○ | 10       |
|             | 定期考査                                                                                                                                                            |                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | ○ | ○ |   | 1        |
|             | 【知識及び技能】<br>和の記号Σの表し方や性質を理解する。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>いろいろな数列について、その一般項や和を求めたり、和から一般項を求めたりできるようにする。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>工夫して求める方法に興味をもち、公式を導こうとする意欲がある。          | 第2節 いろいろな数列・和の記号Σ<br>・階差数列<br>・いろいろな数列の和                               | 【知識・技能】<br>記号Σの意味と性質を理解し、数列の和が求められる。階差数列を利用して、もとの数列の一般項が求められる。<br>【思考・判断・表現】<br>数列の和を記号Σで表して、和の計算を簡単に行うことができる。数列の規則性の発見に階差数列が利用できる。初項から第n項までの和に着目して、一般項を考察できる。<br>【主体的に学習に取り組む態度】<br>工夫して求める方法に興味をもち、公式を導こうとする意欲がある。                                                                                                               | ○ | ○ | ○ | 10       |
|             | 定期考査                                                                                                                                                            |                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | ○ | ○ |   | 1        |
| 2<br>学<br>期 | 【知識及び技能】<br>数列の帰納的な定義について理解し、漸化式から一般項が求められる。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>数学的帰納法の仕組みを理解し、様々な命題の証明に活用できるようにする。         | 第3節 漸化式と数学的帰納法<br>・漸化式<br>・数学的帰納法                                      | 【知識・技能】<br>漸化式の意味を理解し、具体的に項が求められる。漸化式を適切に変形して、その数列の特徴を考察することができる。<br>【思考・判断・表現】<br>初項と漸化式を用いて数列を定義できることを理解している。複雑な漸化式をおき換えなどを用いて既知の漸化式に帰着して求めることができる。<br>【主体的に学習に取り組む態度】<br>おき換えや工夫を要する複雑な漸化式について考察しようとする。                                                                                                                         | ○ | ○ | ○ | 8        |
|             | 【知識及び技能】<br>確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差などをとめることができる。<br>【思考力・判断力・表現力等】<br>分布の特徴を把握できる。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>連続型確率変数についても理解し、正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。       | 第2章 統計的な推測<br>第1節 確率分布<br>・確率変数と確率分布<br>・確率変数と期待値と分散<br>・確率変数の和と積      | 【知識・技能】<br>確率変数や確率分布について、用語の意味を理解している。確率変数の確率分布を求めることができる。確率変数の期待値、分散、標準偏差を求めることができる。確率変数の和の期待値を、公式を利用して求めることができる。<br>【思考・判断・表現】<br>思考の結果を確立分布で表すことの意味がとらえられている。確率変数の期待値、分散、標準偏差を用いて確率分布の特徴を考察することができる。<br>【主体的に学習に取り組む態度】<br>確率的な試行の結果を表すのに確率分布を用いることのよさに気づき、確率分布について積極的に考察しようとする。<br>確率変数の期待値、分散に関する種々の公式を、その定義や既知の公式を用いて導こうとする。 | ○ | ○ | ○ | 13       |

|             |                                                                                                                                                                                   |                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |   |   |   |    |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|----|
|             |                                                                                                                                                                                   |                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |   |   |   |    |
|             | 定期考查                                                                                                                                                                              |                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | ○ | ○ |   | 1  |
|             | <p>【知識及び技能】<br/>確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差などをもとめることができる。</p> <p>【思考力・判断力・表現力等】<br/>分布の特徴を把握できる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】<br/>連続型確率変数についても理解し、正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。</p>      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・二項分布</li> <li>・正規分布</li> </ul>                                     | <p>【知識・技能】<br/>反復試行の結果を、二項分布を用いて表すことができる。二項分布に従う確率変数の期待値や分散を求めることができる。日常の身近な問題を統計的に処理するのに、正規分布を利用できる。</p> <p>【思考・判断・表現】<br/>具体的な事象を二項分布として捉え、考察することができる。正規分布の特徴を理解し、様々な視点からとらえることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】<br/>二項分布に興味・関心を持ち、さいころを投げるなどの具体的な事項について考察しようとする。現実のデータが正規分布に近い分布になることがあることに興味を持ち、様々なデータについて考察しようとする。</p> | ○ | ○ | ○ | 14 |
|             | 定期考查                                                                                                                                                                              |                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | ○ | ○ |   | 1  |
| 3<br>学<br>期 | <p>【知識及び技能】<br/>母集団と標本、標本平均について理解することができる。</p> <p>【思考力・判断力・表現力等】<br/>標本平均については、それが確率変数であることを正しく理解した上で考察できるようにする。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】<br/>日常の事象の考察や様々な判断に積極的に活用しようとする態度を育てる。</p> | <p>第2節 統計的な推測</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・母集団と標本</li> <li>・標本平均の分布</li> <li>・推定</li> </ul> | <p>【知識・技能】<br/>標本平均が確率変数であることを理解している。母平均と母標準偏差から標本平均の期待値と標準偏差を求めることができる。推定に関わる用語・記号を適切に活用することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】<br/>母平均と母標準偏差の考え方や標本平均の期待値と標準偏差の考え方がわかる。推定や信頼区間の考え方がわかる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】<br/>現実に行われている様々な調査が全数調査か標本調査か、またその方法を採用しているのはなぜかに興味を持ち、特徴を調べたり考えたりしようとする。</p>                                     | ○ | ○ | ○ | 10 |
|             | 定期考查                                                                                                                                                                              |                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | ○ | ○ |   | 1  |
|             |                                                                                                                                                                                   |                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |   |   |   | 合計 |
|             |                                                                                                                                                                                   |                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |   |   |   | 70 |

年間授業計画

都立栞島 高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 数学 科目 数学演習

教 科： 数学 科 目： 数学演習 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 1, 3, 5, 7 組

教科担当者：西山、古家

使用教科書：（基本と演習テーマ 数学Ⅰ＋A 数研出版）

使用教材：（新編数学Ⅰ 数研出版）

教科の目標：

【知識・技能等】 基本的な概念・原理・法則を体系的に理解し、事象を数学的に表現・処理する技能を身に付けさせる。

【思考力、判断力、表現力等】 事象を数学的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育てる。

科目 数学演習 の目標：

| 【知識及び技能】                                                                                                            | 【思考力、判断力、表現力等】                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 【学びに向かう力、人間性等】                                                                                     |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数と式、図形と計量、2次関数、データの分析、図形の性質及び場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。 | 数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。さらに、図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見出し、論理的に考察する力、数学と人間の活動とのかかわりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。 | ・数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。<br>・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 |

|             | 単元の具体的な指導目標                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 指導項目・内容                                                                                                                                                 | 評価規準                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 知 | 思 | 態 | 配<br>当<br>時<br>数 |
|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|------------------|
| 1<br>学<br>期 | 1章 数と式<br>【知識・技能】<br>・数を実数まで拡張する意義を理解するとともに、簡単な無理数の計算をすることができるようにする。<br>・2次の乗法公式や因数分解の公式を適切に用いて計算をするようにする。<br>・不等式の解の意味や不等式の性質について理解するとともに、1次不等式の解を求めることができるようにする。<br><br>【思考・判断・表現】<br>・問題を解決する際に、既に学習した計算の方法関連付けて、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりする力を養う。<br>・1次方程式を解く方法や不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察することができるようにする。<br>・日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、1次不等式を問題解決に活用する力を養う。<br><br>【主体的に学習に取り組む態度】<br>・事象を数と式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりする態度を養う。<br>・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりする態度を養う。 | 1章 数と式<br>指導事項<br>1節 式の計算<br>1 展開<br>2 因数分解<br>2節 実数<br>1 実数<br>2 根号を含む式の計算<br>3節 1次不等式<br>1 不等式と1次不等式<br>2 不等式的应用<br><br>演習                            | 1章 数と式<br>【知識・技能】<br>・数を実数まで拡張する意義を理解するとともに、簡単な無理数の計算をすることができる。<br>・2次の乗法公式や因数分解の公式を適切に用いて計算をすることができる。<br>・不等式の解の意味や不等式の性質について理解するとともに、1次不等式の解を求めることができる。<br><br>【思考・判断・表現】<br>・問題を解決する際に、既に学習した計算の方法関連付けて、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりすることができる。<br>・1次方程式を解く方法や不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察することができる。<br>・日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、1次不等式を問題解決に活用することができる。<br><br>【主体的に学習に取り組む態度】<br>・事象を数と式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。<br>・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 | ○ | ○ | ○ | 12               |
|             | 定期考査                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | ○ | ○ |   | 1                |
|             | 4章 図形と計量<br><br>【知識・技能】<br>・鋭角の三角比の意味と相互関係について理解できるようにする。<br>・鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求める方法を理解できるようにする。<br>・正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理を関連付けて理解できるようにする。<br>・正弦定理や余弦定理などを用いて三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができるようにする。<br><br>【思考・判断・表現】<br>・図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現し、定理や公式として導くことができるようにする。<br>・図形の構成要素間の関係に「第1」                                                                                                                                                                                                    | 4章 図形と計量<br><br>1節 鋭角の三角比<br>1 直角三角形と三角比<br>2 三角比の相互関係<br>2節 三角比の拡張<br>1 三角比と座標<br>2 三角比の性質<br>3節 三角形への応用<br>1 正弦定理・余弦定理・面積の公式<br>2 空間図形の計量<br><br>演習問題 | 4章 図形と計量<br><br>【知識・技能】<br>・鋭角の三角比の意味と相互関係について理解している。<br>・三角比を鈍角まで拡張する意義を理解している。<br>・鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求める方法を理解している。<br>・正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理を関連付けて理解している。<br>・正弦定理や余弦定理などを用いて三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。<br><br>【思考・判断・表現】<br>・図形の構成要素間の関係を三角比を用い                                                                                                                                                                                                                              | ○ | ○ | ○ | 16               |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |   |   |   |    |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|----|
| <p>図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができるようにする。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事象を図形と計量の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとする態度を養う。</li> <li>・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度を養う。</li> </ul>                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                 | <p>て表現し、定理や公式として導くことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。</li> </ul> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事象を図形と計量の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。</li> <li>・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。</li> </ul>                                           |   |   |   |    |
| 定期考査                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | ○ | ○ |   | 1  |
| <p>2章 集合と論証</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集合と命題に関する基本的な概念を理解できるようにする。</li> </ul> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集合の考えを用いて命題を論理的に考察し、簡単な命題の証明をすることができるようにする。</li> </ul> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事象を集合と論証の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとする創造性の基礎を養う。</li> <li>・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度を養う。</li> </ul> | <p>2章 集合と論証</p> <p>指導事項</p> <p>1節 集合</p> <p>1 集合</p> <p>2節 命題と論証</p> <p>1 命題と条件</p> <p>2 論証</p> <p>必要条件、十分条件</p> <p>逆・裏・対偶</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書、問題集</li> <li>・一人1台端末の活用 等</li> </ul> | <p>2章 集合と論証</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集合と命題に関する基本的な概念を理解している。</li> </ul> <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集合の考えを用いて命題を論理的に考察し、簡単な命題の証明をすることができる。</li> </ul> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事象を集合と論証の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。</li> <li>・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。</li> </ul> | ○ | ○ | ○ | 18 |
| 定期考査                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | ○ | ○ |   | 1  |

|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |   |   |   |    |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|----|
| 2<br>学<br>期 | 3章 2次関数<br>【知識・技能】<br>・2次関数の値の変化やグラフの特徴について理解できるようにする。<br>・2次関数の最大値や最小値を求めることができるようにする。<br>・2次方程式の解と2次関数のグラフとの関係について理解することができるようにする。<br>・2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求められるようにする。<br><br>【思考・判断・表現】<br>・2次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察することができるようにする。<br>・2つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができるようにする。<br><br>【主体的に学習に取り組む態度】<br>・事象を2次関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりする創造性の基礎を養う。<br>・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度を養う。                   | 3章 2次関数<br>指導事項<br>1節 2次関数とそのグラフ<br>1 2次関数<br>2 2次関数の最大・最小<br>3 2次関数の決定<br>2節 2次方程式と2次不等式<br>1 2次関数のグラフとx軸の共有点の個数<br>2 2次関数のグラフとx軸の共有点の個数<br>3 2次不等式 | 3章 2次関数<br>【知識・技能】<br>・2次関数の値の変化やグラフの特徴について理解している。<br>・2次関数の最大値や最小値を求めることができる。<br>・2次方程式の解と2次関数のグラフとの関係について理解している。<br><br>【思考・判断・表現】<br>・2次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察することができる。<br>・2つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。<br><br>【主体的に学習に取り組む態度】<br>・事象を2次関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。<br>・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。                                                                                                                                                                   | ○ | ○ | ○ | 10 |
|             | 定期考査                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | ○ | ○ |   | 1  |
| 3<br>学<br>期 | 5章 データの分析<br><br>【知識・技能】<br>・分散、標準偏差、散布図及び相関係数の意味やその用い方を理解できるようにする。<br>・コンピュータなどの情報機器を用いるなどして、データを表やグラフに整理したり、分散や標準偏差などの基本的な統計量を求めたりすることができるようにする。<br>・具体的な事象において仮説検定の考え方を理解できるようにする。<br><br>【思考・判断・表現】<br>・データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察することができるようにする。<br>・目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法hなどを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現することができるようにする。<br>・不確実な事象の起こりやすさに着目し、首長の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりすることができるようにする。<br><br>【主体的に学習に取り組む態度】<br>・事象をデータの分析の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりする創造性の基礎を養う。<br>・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度を養う。 | 5章 データの分析<br>1節 データの分析<br>1 データの散らばり<br>2 データの相関<br>2節 データの分析の応用<br>1 データの分析を利用した問題解決<br>3節 仮説検定の考え方<br>1 仮説検定の考え方                                   | 5章 データの分析<br><br>【知識・技能】<br>・分散、標準偏差、散布図及び相関係数の意味やその用い方を理解している。<br>・コンピュータなどの情報機器を用いるなどして、データを表やグラフに整理したり、分散や標準偏差などの基本的な統計量を求めたりすることができる。<br>・具体的な事象において仮説検定の考え方を理解している。<br><br>【思考・判断・表現】<br>・データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察することができる。<br>・目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法hなどを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現することができる。<br>・不確実な事象の起こりやすさに着目し、首長の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりすることができる。<br><br>【主体的に学習に取り組む態度】<br>・事象をデータの分析の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。<br>・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。<br>・事象をデータの分析の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 | ○ | ○ | ○ | 10 |
|             | 定期考査                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | ○ | ○ |   |    |
|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |   |   |   | 合計 |
|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |   |   |   | 70 |

年間授業計画

都立拝島高等学校 令和7年度(2学年用) 教科 理科 科目 物理基礎

教科 理科 科目 物理基礎 単位数 2 単位

対象学年組 第2学年 1組～7組

教科担当者 (1組:阿久津) (2組:阿久津) (3組:阿久津) (4組:阿久津) (5組:阿久津) (6組:阿久津) (7組:阿久津)

使用教科書 (高校物理基礎 実教出版)

教科 理科 の目標

【知識及び技能】実験・観察などを通して基本的な操作や危険性を理解し身につける。

【思考力、判断力、表現力等】中学校で学習した理科(第一分野)との結びつきを基礎として、根拠に基づいた自分の考えを持ち表現すること。

【学びに向かう力、人間性等】社会の中における理科の役割に興味を持ち、積極的に学ぶ姿勢を持っている。

科目 物理基礎 の目標

| 【知識及び技能】                                                           | 【思考力、判断力、表現力等】                                              | 【学びに向かう力、人間性等】                       |
|--------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|--------------------------------------|
| 実験・観察などを通して基本的な操作や危険性を理解し身につけるとともに、物理学の基本的な概念や社会での役割を理解し考えることができる。 | 中学校で学習した理科(第一分野)との結びつきを基礎として、化学的な根拠に基づいた自分の考えを持ち表現することができる。 | 社会の中における物理学の役割に興味を持ち、積極的に学ぶ姿勢を持っている。 |

|         | 単元の具体的な指導目標                                                                                                                                               | 指導項目・内容                                                                                                  | 評価規準                                                                                                                                                         | 知 | 思 | 態 | 配当<br>時数 |
|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|----------|
| 1<br>学期 | A 物体の運動<br>【知識及び技能】<br>実験室の仕方、安全面について理解する。実験結果から力学の基本的な概念を獲得する。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>課題について、自分の考えを話すことができる。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>社会の中における物理学の役割に興味を持つ。    | ・速さとその表し方・等速直線運動・速さと速度変位・速度の合成と相対速度・加速度・等加速度直線運動・落下運動・力・力の合成分解・力のつりあい・作用反作用・慣性の法則・運動井の法則・運動方程式・摩擦力・圧力と浮力 | 【知識・技能】<br>実験の方法、安全面について理解して。力学の基本的な概念を獲得している。<br>【思考・判断・表現】<br>課題について、自分の考えを他人に説明することができる。<br>【主体的に学習に取り組む態度】<br>積極的に授業に取り組んでいる。社会の中における物理学の役割に興味を持っている。    | ○ | ○ | ○ | 14       |
|         | B エネルギー<br>【知識及び技能】<br>実験室の仕方、安全面について理解する。実験結果からエネルギーの基本的な概念を獲得する。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>課題について、自分の考えを話すことができる。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>社会の中における物理学の役割に興味を持つ。 | ・仕事・仕事の性質と仕事率・運動エネルギー・重力場の位置エネルギー・弾性エネルギー・力学的エネルギー保存の法則・温度と熱・温度変化に必要な熱量・熱と仕事・熱機関の効率                      | 【知識・技能】<br>実験の方法、安全面について理解して。エネルギーの基本的な概念を獲得している。<br>【思考・判断・表現】<br>課題について、自分の考えを他人に説明することができる。<br>【主体的に学習に取り組む態度】<br>積極的に授業に取り組んでいる。社会の中における物理学の役割に興味を持っている。 | ○ | ○ | ○ | 11       |
|         | 定期考査                                                                                                                                                      |                                                                                                          |                                                                                                                                                              | ○ | ○ |   | 1        |
| 2<br>学期 | C 波<br>【知識及び技能】<br>実験室の仕方、安全面について理解する。実験結果から波動の基本的な概念を獲得する。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>課題について、自分の考えを話すことができる。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>社会の中における物理学の役割に興味を持つ。        | ・波とは何か・波の性質・横波と縦波・波の重ね合わせの原理・定常波・波の反射・波の屈折・音の伝わり方・減の振動・気柱の共鳴                                             | 【知識・技能】<br>実験の方法、安全面について理解して。波動の基本的な概念を獲得している。<br>【思考・判断・表現】<br>課題について、自分の考えを他人に説明することができる。<br>【主体的に学習に取り組む態度】<br>積極的に授業に取り組んでいる。社会の中における物理学の役割に興味を持っている。    | ○ | ○ | ○ | 14       |
|         | D 電気<br>【知識及び技能】<br>実験室の仕方、安全面について理解する。実験結果から電気の基本的な概念を獲得する。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>課題について、自分の考えを話すことができる。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>社会の中における物理学の役割に興味を持つ。       | ・静電気と電子・電流と電気抵抗・抵抗の接続・低効率・電力と電力量・磁場・電磁誘導・変圧と送電・電磁波                                                       | 【知識・技能】<br>実験の方法、安全面について理解して。電気の基本的な概念を獲得している。<br>【思考・判断・表現】<br>課題について、自分の考えを他人に説明することができる。<br>【主体的に学習に取り組む態度】<br>積極的に授業に取り組んでいる。社会の中における物理学の役割に興味を持っている。    | ○ | ○ | ○ | 15       |
|         | 定期考査                                                                                                                                                      | ・エネルギーの変換と私たちの暮らし                                                                                        |                                                                                                                                                              | ○ | ○ |   | 1        |
| 3<br>学期 | E 物理と社会<br>【知識及び技能】<br>物理学と社会のかかわりについて理解する。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>課題について、自分の考えを話すことができる。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>社会の中における物理学の役割に興味を持つ。                        | ・エネルギーの変換と私たちの暮らし・電気エネルギーへの変換・原子核エネルギー・放射線・科学的に判断すること                                                    | 【知識・技能】<br>物理学と社会のかかわりについて理解している。<br>【思考・判断・表現】<br>課題について、自分の考えを他人に説明することができる。<br>【主体的に学習に取り組む態度】<br>積極的に授業に取り組んでいる。社会の中における物理学の役割に興味を持っている。                 | ○ | ○ | ○ | 13       |
|         | 定期考査                                                                                                                                                      |                                                                                                          |                                                                                                                                                              | ○ | ○ |   | 1        |
|         |                                                                                                                                                           |                                                                                                          |                                                                                                                                                              |   |   |   | 合計<br>70 |

年間授業計画

都立拝島高等学校

令和7年度

教科

理科

科目

生物基礎

教科：理科

科目：生物基礎

単位数：2単位

対象学年組：第2学年1組～7組

教科担当者：（1組：佐藤公一）（2組：佐藤公一）（3組：佐藤公一）（4組：佐藤公一）（5組：佐藤公一）（6組：佐藤公一）（7組：佐藤公一）

使用教科書：（高校生物基礎 実教出版）

教科 理科

の目標：

【知識及び技能】実験・観察などを通して基本的な操作や危険性を理解し身につける。

【思考力、判断力、表現力等】中学校で学習した理科との結びつきを基礎として、根拠に基づいた自分の考えを持ち表現することができる。

【学びに向かう力、人間性等】社会の中における理科の役割に興味を持ち、積極的に学ぶ姿勢を持っている。

科目 生物基礎

の目標：

| 【知識及び技能】                                                                                                               | 【思考力、判断力、表現力等】                                                                                                              | 【学びに向かう力、人間性等】                                                                                    |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての観察、実験などを行うことを通して、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が身に付ける。 | 生物や生物現象を対象に、探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法を習得する。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力を育む。 | 生物や生物現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度が養う。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度が養う。 |

|             | 単元の具体的な指導目標                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 指導項目・内容                                                                                             | 評価規準                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 知 | 思 | 態 | 配当<br>時数 |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|----------|
| 1<br>学<br>期 | A 生物の多様性と共通性<br>【知識・技能】<br>生物の共通性と多様性について、すべての生物で細胞が共通の構造であることを理解させる。<br>【思考・判断・表現】<br>・生物に共通する性質を見だし、生物が共通性を保ちながら進化し多様化してきたこと、共通性は起源の共有に由来することを理解し、表現できる。<br>・細胞が生物の基本構造であることを、生物学的な視点から考察することができる。<br>【主体的に学習に取り組む態度】<br>様々な生物の比較に基づいて、生物は多様でありながら共通性をもっていることを見だし理解させる。                                                                                        | ・指導事項<br>1. 生物の多様性と共通性<br>2. 生物の共通性と進化<br>3. 細胞・細胞の観察<br>高校生物基礎 実教出版<br>ワークシート、ポートフォリオ              | 【知識・技能】<br>生物の共通性と多様性について、すべての生物で細胞が共通の構造であることを理解している。<br>【思考・判断・表現】<br>・生物に共通する性質を見だし表現することができる。<br>・生物が共通性を保ちながら進化し多様化してきたこと、共通性は起源の共有に由来することを説明できる。<br>・細胞が生物の基本構造であることを、生物学的な視点から考察することができる。<br>【主体的に学習に取り組む態度】<br>様々な生物の比較に基づいて、生物は多様でありながら共通性をもっていることを見だし理解しようとする。                                                                                                        | ○ | ○ | ○ | 8        |
|             | B 細胞とエネルギー<br>【知識及び技能】<br>・生命活動に必要なエネルギーを、呼吸や光合成から得ていることを理解させる。<br>・体内で行われる化学反応は、酵素が触媒していることを理解させる。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>・呼吸や光合成からエネルギーを得る方法を、関連づけて考察し、それを表現できるようにする。<br>・カタラーゼを用いた実験から、酵素の作用と作用する物質の関係について結果を導き出させる。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>・資料に基づいて、生命活動にエネルギーが必要であることを理解させる。また、呼吸や光合成から得ていることを理解させる。<br>・体内で行われる化学反応は、酵素が関わっていることを理解させる。                        | ・指導事項<br>1. 代謝とエネルギー<br>2. 酵素と代謝<br>3. 光合成<br>4. 呼吸<br>5. エネルギーの流れ<br>高校生物基礎 実教出版<br>ワークシート、ポートフォリオ | 【知識及び技能】<br>・生命活動に必要なエネルギーを、呼吸や光合成から得ていることを理解している。<br>・体内で行われる化学反応は、酵素が触媒していることを理解している。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>・呼吸や光合成からエネルギーを得る方法を、関連づけて考察し、それを表現できる。<br>・カタラーゼを用いた実験から、酵素の作用と作用する物質の関係について結果を導き出すことができる。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>・資料に基づいて、生命活動にエネルギーが必要であることを理解しようとする。また、呼吸や光合成から得ていることを理解しようとする。<br>・体内で行われる化学反応は、酵素が関わっていることを理解しようとする。                                           | ○ | ○ | ○ | 6        |
|             | 定期考査                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | ○ | ○ |   | 1        |
|             | C 遺伝情報とDNA<br>【知識及び技能】<br>・DNAが二重らせん構造であること、そのため、2本鎖の塩基配列は相補的であることを理解させる。<br>・ゲノム、遺伝子、染色体、DNAの関係を理解させる。<br>・体細胞分裂が行われる際に、遺伝情報の同一性が保たれることを理解させる。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>・資料に基づき、DNAの構造を科学的に見いださせる。<br>・DNAの複製を塩基配列と関連付けて説明できるようにする。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>・DNAの性質や構造を、DNAの研究史とともに理解させる。<br>・ゲノムと遺伝子、染色体、DNAの関係について理解させる。<br>・細胞分裂の際に、DNAの塩基配列が正確に複製されるしくみを見だし、理解させる。 | ・指導事項<br>1. 遺伝子の本体<br>2. DNAの複製と分配<br>高校生物基礎 実教出版<br>ワークシート、ポートフォリオ                                 | 【知識及び技能】<br>・DNAが二重らせん構造であること、そのため、2本鎖の塩基配列は相補的であることを理解している。<br>・ゲノム、遺伝子、染色体、DNAの関係を理解している。<br>・体細胞分裂が行われる際に、遺伝情報の同一性が保たれることを理解している。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>・資料に基づき、DNAの構造を科学的に見いだすことができる。<br>・DNAの複製を塩基配列と関連付けて説明することができる。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>・DNAの性質や構造を、DNAの研究史とともに理解しようとする。<br>・ゲノムと遺伝子、染色体、DNAの関係について理解しようとする。<br>・細胞分裂の際に、DNAの塩基配列が正確に複製されるしくみを見だし、理解しようとする。              | ○ | ○ | ○ | 8        |
|             | D 遺伝情報とタンパク質<br>【知識及び技能】<br>・さまざまな生命現象にはタンパク質が関わっており、それらタンパク質がDNAの遺伝情報に基づいて合成されることを理解させる。<br>・DNAの塩基配列に基づいて、タンパク質が合成されることを理解させる。<br>・遺伝子の発現について理解し、細胞ごとに特定の遺伝子が発現することを理解させる。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>・DNAの遺伝情報に基づいてタンパク質が合成される過程を体系的に考察し、表現できるようにする。<br>・DNAからタンパク質が合成される際には、転写・翻訳が行われることを説明できるようにする。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>・DNAの塩基配列の情報に基づいて、タンパク質が合成されることを理解させる。   | ・指導事項<br>1. 遺伝子とタンパク質<br>2. タンパク質の合成<br>3. 遺伝子の発現<br>4. ゲノムと遺伝子<br>高校生物基礎 実教出版<br>ワークシート、ポートフォリオ    | 【知識及び技能】<br>・さまざまな生命現象にはタンパク質が関わっており、それらタンパク質がDNAの遺伝情報に基づいて合成されることを理解している。<br>・DNAの塩基配列に基づいて、タンパク質が合成されることを理解している。<br>・遺伝子の発現について理解し、細胞ごとに特定の遺伝子が発現することを理解する。<br>・試料の採取、染色などを行い、光学顕微鏡で観察する技能を習得している。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>・DNAの遺伝情報に基づいてタンパク質が合成される過程を体系的に考察し、表現できる。<br>・DNAからタンパク質が合成される際には、転写・翻訳が行われることを説明できる。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>・DNAの塩基配列の情報に基づいて、タンパク質が合成されることを理解しようとする。 | ○ | ○ | ○ | 6        |
|             | 定期考査                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | ○ | ○ |   | 1        |

|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |   |   |   |    |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|----|
| 2<br>学<br>期 | <p>・体内環境</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体内環境が一定の範囲に保たれることとその意味を理解させる。</li> <li>・腎臓での塩類濃度の調節や、肝臓による物質の合成・分解などのしくみを理解させる。</li> <li>・解剖など生体を取り扱う技能を習得させる。</li> </ul> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・恒常性により、体内環境が保たれていることを考察できるようにする。</li> <li>・腎臓の働きについて体系的に理解し、ろ過・再吸収のしくみを説明することができるようになる。</li> </ul> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外界の環境が変化しても、体内環境は一定の範囲に保たれていることを理解させる。</li> <li>・体液を調節することで、体内環境が保たれていることを理解させる。</li> <li>・腎臓による塩類濃度調節や、肝臓による物質の合成・分解などのしくみを理解させる。</li> </ul>                                                                                 | <p>・指導事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 体内環境と恒常性</li> <li>2. 体液とその働き</li> <li>3. 体液の調節</li> </ol> <p>・高校生物基礎 実教出版</p> <p>・ワークシート、ポートフォリオ</p>                                 | <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体内環境が一定の範囲に保たれることとその意味を理解している。</li> <li>・腎臓での塩類濃度の調節や、肝臓による物質の合成・分解などのしくみを理解している。</li> <li>・解剖など生体を取り扱う技能を習得している。</li> </ul> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・恒常性により、体内環境が保たれていることを考察することができる。</li> <li>・腎臓の働きについて体系的に理解し、ろ過・再吸収のしくみを説明することができる。</li> </ul> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外界の環境が変化しても、体内環境は一定の範囲に保たれていることを理解しようとする。</li> <li>・体液を調節することで、体内環境が保たれていることを理解しようとする。</li> <li>・腎臓による塩類濃度調節や、肝臓による物質の合成・分解などのしくみを理解しようとする。</li> </ul>                                                                       | ○ | ○ | ○ | 6  |
|             | <p>・体内環境の維持のしくみ</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・神経やホルモンの働きにより体内環境が維持されることを理解させる。</li> <li>・ホルモンの分泌により血糖濃度が保たれることを理解しており、ホルモンの分泌不足による発症する疾患についての知識を得させる。</li> <li>・実験により得られたデータを比較・分析することにより、結論を導き出すことができるようにする。</li> </ul> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体の調節に関する観察、実験などを行い、体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見いだして理解させる。</li> <li>・血糖濃度調節のしくみを、ホルモンと自律神経系の両方の働きから説明できるようにする。</li> </ul> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体内環境の維持とホルモンの働きとの関係を見いだして理解させる。</li> <li>・観察、実験に基づいて、体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見いだし、理解させる。</li> <li>・資料に基づいて、ヒトの血糖濃度が調節されるしくみを見いだし、理解させる。</li> </ul> | <p>・指導事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報の伝達</li> <li>2. 自律神経による情報伝達</li> <li>3. 内分泌系による調節</li> <li>4. 内分泌系と自律神経による調節</li> </ol> <p>・高校生物基礎 実教出版</p> <p>・ワークシート、ポートフォリオ</p> | <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・神経やホルモンの働きにより体内環境が維持されることを理解している。</li> <li>・ホルモンの分泌により血糖濃度が保たれることを理解しており、ホルモンの分泌不足による発症する疾患についての知識を得ている。</li> <li>・実験により得られたデータを比較・分析することにより、結論を導き出すことができる。</li> </ul> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体の調節に関する観察、実験などを行い、体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見いだして理解することができる。</li> <li>・血糖濃度調節のしくみを、ホルモンと自律神経系の両方の働きから説明できる。</li> </ul> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体内環境の維持とホルモンの働きとの関係を見いだして理解しようとする。</li> <li>・観察、実験に基づいて、体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見だし、理解しようとする。</li> <li>・資料に基づいて、ヒトの血糖濃度が調節されるしくみを見いだし、理解しようとする。</li> </ul> | ○ | ○ | ○ | 6  |
|             | <p>・免疫</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒトには異物を排除する防御機構が備わっていることを理解させる。</li> <li>・病原体などの異物を認識・排除するしくみを理解させる。</li> <li>・免疫の医療への応用やヒトの免疫疾患について理解させる。</li> </ul> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料に基づいて、異物を排除する防御機構が備わっていることを見出して理解させる。</li> <li>・病原体を認識・排除する機構のしくみを体系的に考察し、表現することができるようにする。</li> <li>・一次応答と二次応答の違いを理解させ、同じ疾患に二度かかりにくい理由を考察できるようにする。</li> <li>・ヒトの免疫疾患について、身近な例をもとに説明することができるようになる。</li> </ul> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病原体などの異物を認識・排除するしくみを理解させる。</li> </ul>                                                                                   | <p>・指導事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生体防御と免疫</li> <li>2. 自然免疫</li> <li>3. 獲得免疫のしくみ</li> <li>4. 免疫と疾患</li> </ol> <p>・高校生物基礎 実教出版</p> <p>・ワークシート、ポートフォリオ</p>                | <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒトには異物を排除する防御機構が備わっていることを理解している。</li> <li>・病原体などの異物を認識・排除するしくみを理解している。</li> <li>・免疫の医療への応用やヒトの免疫疾患について理解している。</li> </ul> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料に基づいて、異物を排除する防御機構が備わっていることを見出して理解することができる。</li> <li>・病原体を認識・排除する機構のしくみを体系的に考察し、表現することができる。</li> <li>・一次応答と二次応答の違いを理解させ、同じ疾患に二度かかりにくい理由を考察できるようにする。</li> <li>・ヒトの免疫疾患について、身近な例をもとに説明することができる。</li> </ul> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病原体などの異物を認識・排除するしくみを理解しようとする。</li> </ul>                                                                             | ○ | ○ | ○ | 8  |
|             | 定期考査                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | ○ | ○ |   | 1  |
| 3<br>学<br>期 | <p>Ⅵ 生態系とその成り立ち</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・陸上には、森林・草原・砂漠などの多くの植生がみられ、植物をとり巻く環境や構成種により植生が変わっていくことを理解させる。</li> <li>・植生の遷移についてその過程を理解させる。</li> <li>【思考力、判断力、表現力等】</li> <li>・植生の成り立ちが、林内の光環境や植物の光に対する特性、土壌の発達段階に影響を受けていることを考察することができるようにする。</li> <li>・資料に基づいて、遷移の要因を見いだして理解することができるようにする。</li> <li>・植生の遷移が、光環境や土壌の変化によってどのように進むかを説明できるようにする。</li> </ul> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生物は環境からの影響を受けながら存在し、生態系には多様な生物が存在することを理解させる。</li> <li>・資料に基づいて、植生が変化する要因を見いだし、植生にどのような影響を与えるかを理解させる。</li> </ul>                                                                                          | <p>・指導事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生態系</li> <li>2. 植生とその変化</li> <li>3. 遷移のしくみ</li> </ol> <p>・高校生物基礎 実教出版</p> <p>・ワークシート、ポートフォリオ</p>                                     | <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・陸上には、森林・草原・砂漠などの多くの植生がみられ、植物をとり巻く環境や構成種により植生が変わっていくことを理解している。</li> <li>・植生の遷移についてその過程を理解している。</li> </ul> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・植生の成り立ちが、林内の光環境や植物の光に対する特性、土壌の発達段階に影響を受けていることを考察することができる。</li> <li>・資料に基づいて、遷移の要因を見いだして理解することができる。</li> <li>・植生の遷移が、光環境や土壌の変化によってどのように進むかを説明できる。</li> </ul> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生物は環境からの影響を受けながら存在し、生態系には多様な生物が存在することを理解しようとする。</li> <li>・資料に基づいて、植生が変化する要因を見いだし、その要因が植生にどのような影響を与えるかを理解しようとする。</li> </ul>                                                         | ○ | ○ | ○ | 7  |
|             | <p>Ⅶ 植生とバイオーム</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球上には、気温や降水量ごとにさまざまなバイオームが成立していることを理解させる。</li> <li>・遷移の結果として森林・草原・荒原のバイオームとなることを理解させる。</li> </ul> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気温や降水量によって成立するバイオームが異なるのは、バイオームを構成する植物種がその場所の気温や降水量に適応しているためであると考察し、それを表現することができるようにする。</li> </ul> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球上にはさまざまなバイオームが成立していることを理解させる。</li> <li>・バイオームの構成要素である植物が、その場所の気温や降水量に適応していることを理解させる。</li> </ul>                                                                                                                                                | <p>・指導事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 世界のバイオームとその分布</li> <li>2. 日本のバイオーム</li> </ol> <p>・高校生物基礎 実教出版</p> <p>・ワークシート、ポートフォリオ</p>                                             | <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球上には、気温や降水量ごとにさまざまなバイオームが成立していることを理解している。</li> <li>・遷移の結果として森林・草原・荒原のバイオームとなることを理解している。</li> </ul> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気温や降水量によって成立するバイオームが異なるのは、バイオームを構成する植物種がその場所の気温や降水量に適応しているためであると考察し、それを表現することができる。</li> </ul> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球上にはさまざまなバイオームが成立していることを理解しようとする。</li> <li>・バイオームの構成要素である植物が、その場所の気温や降水量に適応していることを理解しようとする。</li> </ul>                                                                                                                                               | ○ | ○ | ○ | 4  |
|             | <p>Ⅷ 生態系と生物の多様性</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生態系内における種多様性、生物どうしのかかわりあいについて理解させる。</li> <li>・捕食によって物質とエネルギーが移動することを理解させる。</li> <li>・野外で行う調査・実験の方法を習得させる。</li> </ul> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生態系と生物の多様性に関する観察、実験などから、生態系における生物の種多様性を見いだすことができるようにする。</li> <li>・生物の多様性を食物網や間接効果と関連付けて説明できるようにする。</li> </ul> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生態系において、物質が循環すること及びそれに伴ってエネルギーが移動することを理解させる。</li> </ul>                                                                                                                                                          | <p>・指導事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生物の多様性</li> <li>2. 生物どうしのかかわり</li> </ol> <p>・高校生物基礎 実教出版</p> <p>・ワークシート、ポートフォリオ</p>                                                  | <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生態系内における種多様性、生物どうしのかかわりあいについて理解している。</li> <li>・捕食によって物質とエネルギーが移動することを理解している。</li> <li>・野外で行う調査・実験の方法を習得している。</li> </ul> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生態系と生物の多様性に関する観察、実験などから、生態系における生物の種多様性を見いだすことができる。</li> <li>・生物の多様性を食物網や間接効果と関連付けて説明できる。</li> </ul> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生態系において、物質が循環すること及びそれに伴ってエネルギーが移動することを理解しようとする。</li> </ul>                                                                                                                                                                  | ○ | ○ | ○ | 4  |
|             | <p>Ⅸ 生態系のバランスと保全</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生態系のバランスや、生態系の保全の重要性について理解させる。</li> <li>・インターネットや文献などを用いて、調査する方法を習得させる。</li> </ul> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生態系の保全の重要性について、生物の多様性の視点から考察することができるようにする。</li> <li>・世界の問題について、情報を調査し、自分の考えをまとめ、表現することができるようにする。</li> </ul> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生態系のバランスについてや、生態系の保全することが重要であることを理解し、認識させる。</li> <li>・生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度が養われるようにする。</li> </ul>                                                                                                                                                   | <p>・指導事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生態系のバランス</li> <li>2. 人間生活による環境への影響</li> <li>3. 生態系の保全の重要性</li> </ol> <p>・高校生物基礎 実教出版</p> <p>・ワークシート、ポートフォリオ</p>                      | <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生態系のバランスや、生態系の保全の重要性について理解している。</li> <li>・インターネットや文献などを用いて、調査する方法を習得している。</li> </ul> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生態系の保全の重要性について、生物の多様性の視点から考察することができる。</li> <li>・世界の問題について、情報を調査し、自分の考えをまとめ、表現することができる。</li> </ul> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生態系のバランスについてや、生態系の保全することが重要であることを理解しようとし、認識している。</li> <li>・生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度が養われている。</li> </ul>                                                                                                                                                              | ○ | ○ | ○ | 3  |
|             | 定期考査                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | ○ | ○ |   | 1  |
|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |   |   |   | 合計 |
|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |   |   |   | 70 |

|      |    |    |
|------|----|----|
| 保健体育 | 科目 | 体育 |
|------|----|----|

單位數： 2 單位

(5組：野々垣、久保田) (6組：野々垣、久保田) (7組：野々垣、久保田)

教科 保健体育 の目標：

【思考力、判断力、表現力等】運動・健康についての課題を発見し、その解決に向けて思考・判断するとともに、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたって運動に親しむ態度や健康の保持増進、体力の向上を目指す態度を養う。

科目 体育 の目標：

| 【知識及び技能】                                                                                                 | 【思考力、判断力、表現力等】                                                              | 【学びに向かう力、人間性等】                                                                                   |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深め、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするとともに、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるよう | 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間考えたことを他者に伝える力を養う。 | 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組み、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画するなど意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。 |

|             | 単元の具体的な指導目標                                                                                                                                                                                  | 指導項目・内容                                       | 領域       | 評価規準                                                                                                                                                      | 知 | 思 | 態 | 配<br>時<br>数 |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|-------------|
| 1<br>学<br>期 | A 体力テスト<br>【知識及び技能】<br>授業の流れを理解するとともに、体力テストの意義を知る。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>自己の体力の特徴を理解する。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>仲間と協力しながら、活動に積極的に関与し、意欲的に取り組むことができる。                                             | ・体力テストの意義の理解<br>・各種目の測定<br>・自己の体力、運動能力の把握     | A 体つくり運動 | ・体力テストの意義について理解している。<br>・各測定に積極的に取り組もうとしている。<br>・自己の体力の特徴を知り、その向上のために何が必要か考えることができる。                                                                      | ○ | ○ | ○ | 8           |
|             | B 体育祭練習<br>【知識及び技能】<br>体育祭に向け、各種目の記録の向上を目指す。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>クラスの課題を見つけ、その解決に向けて練習を工夫することができる。                                                                                          | ・大縄跳び<br>・全員リレー                               | A 体つくり運動 | ・体育祭に向け、仲間と協力して活動に取り組むことができる。<br>・記録の向上に向け、何が必要かを考え、行動することができる。                                                                                           |   | ○ | ○ | 8           |
|             | C 水泳<br>【知識及び技能】<br>水泳や水の特性を理解するとともに、基本的な泳法を身に付ける。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>自己の課題を見つけ、記録の向上のために必要なことを考え、行動することができる。                                                                              | ・背泳ぎ25mのタイム測定<br>・時間泳<br>・水泳や水の特性についての理解      | D 水泳     | ・安全に注意して、仲間と協力しながら活動に取り組むことができる。<br>・自己の課題を見つけ、記録の向上のために必要なことを考え、行動することができる。<br>・水泳や水の特性を理解することができる。                                                      | ○ | ○ | ○ | 14          |
| 2<br>学<br>期 | D アルティメット<br>【知識及び技能】アルティメットのルール等理解するとともに、ディスクのスロー、キャッチなど基本動作を身に付ける。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>自己やチームの課題を見つけ、その解決へ向け練習等を工夫できるようになる。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>アルティメットの楽しさや喜びを味わうとともに、学習に主体的に取り組む態度を養う。 | ・スローイング、キャッチング<br>・ゲームのルールの理解                 | E 球技     | ・アルティメットの特性を理解するとともに、スローイング、キャッチングなどの基本的な技能を身に付けることができる。<br>・仲間と協働し、作戦などを考えることができる。<br>・仲間と声を掛け合いながら、主体的に活動に取り組むことができる。                                   | ○ | ○ | ○ | 14          |
|             | D バレーボール<br>【知識及び技能】<br>ゲームのルールや技術について理解するとともに、オーバーパス、アンダーパス等の基本的な動作を身に付ける。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>自己やチームの課題を見つけ、その解決に向けて練習方法等を工夫する力を身に付ける。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>仲間と教え合いながら、活動に主体的に取り組む態度を育む。  | ・オーバーパス、アンダーパス<br>・ゲームのルールの理解                 | E 球技     | ・ゲームのルールや技術について理解するとともに、投げる、捕る、打つ等の基本的な動作を身に付けることができる。<br>・自己やチームの課題を見つけ、その解決に向けて練習方法等を工夫することができる。<br>・仲間と教え合いながら、活動に主体的に取り組むことができる。                      | ○ | ○ | ○ | 14          |
| 3<br>学<br>期 | G 体育理論<br>【知識及び技能】<br>運動の合理的・計画的な実践を通して、学習を深めるとともに運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>自己の状況によって体力の向上を図る能力を育てる。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。 | ・スポーツの発症と発展<br>・運動・スポーツの学び方<br>・豊かなスポーツライフの設計 | H 体育理論   | ・スポーツの特徴、歴史、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。<br>・生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。<br>・運動の楽しさや喜びを味わいながら、学習に主体的に取り組もうとしている。 | ○ | ○ | ○ | 4           |
|             | H 長距離走<br>【知識及び技能】<br>ペースの変化に応じて走ったり、上下動が少なくリラックスしてリズムカルな走りをする力を身に付ける。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>自己や仲間の課題を見つけ、その解決に向けて練習等を工夫する力を身に付ける。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>陸上競技の楽しさや喜びを味わいながら、主体的に活動に取り組む態度を養う。  | ・距離走<br>・ペース走                                 | C 陸上競技   | ・ペースの変化に応じて走ったり、上下動が少なくリラックスしてリズムカルな走りをするすることができる。<br>・自己や仲間の課題を見つけ、その解決に向けて練習等を工夫することができる。<br>・陸上競技の楽しさや喜びを味わいながら、主体的に活動に取り組むことができる。                     | ○ | ○ | ○ | 8           |
|             |                                                                                                                                                                                              |                                               |          |                                                                                                                                                           |   |   |   | 合計          |
|             |                                                                                                                                                                                              |                                               |          |                                                                                                                                                           |   |   |   | 70          |

都立拝島高等学校 令和7年度(2学年用)教科

科目 **体育**

單位數： 2 單位

(5組：笹原・梅木、幡野) (6組：笹原・梅木、幡野) (7組：笹原・梅木、幡野)

)

の目標：

【思考力、判断力、表現力等】運動・健康についての課題を発見し、その解決に向けて思考・判断するとともに、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたって運動に親しむ態度や健康の保持増進、体力の向上を目指す態度を養う。

の目標：

| 【知識及び技能】                                                                                                  | 【思考力、判断力、表現力等】                                                              | 【学びに向かう力、人間性等】                                                                                    |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるよう | 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間考えたことを他者に伝える力を養う。 | 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画するなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。 |

|             | 単元の具体的な指導目標                                                                                                                                                                                                                                       | 指導項目・内容                                       | 領域       | 評価規準                                                                                                                                                      | 知 | 思 | 態 | 配当<br>時数 |
|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|----------|
| 1<br>学<br>期 | A 体力テスト<br>【知識及び技能】<br>授業の流れを理解するとともに、体力テストの意義を知る。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>自己の体力の特徴を理解する。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>仲間と協力しながら、活動に積極的に関与することができる。                                                                                                          | ・体力テストの意義の理解<br>・各種目の測定<br>・自己の体力、運動能力の把握     | A 体つくり運動 | ・体力テストの意義について理解している。<br>・各測定に積極的に取り組もうとしている。<br>・自己の体力の特徴を知り、その向上のために何が必要かを考えることができる。                                                                     | ○ | ○ | ○ | 8        |
|             | B 体育祭練習<br>【知識及び技能】<br>体育祭に向け、各種目の記録の向上を目指す。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>クラスの課題を見つけ、その解決に向けて練習を工夫することができる。                                                                                                                                               | ・大縄跳び<br>・全員リレー                               | A 体つくり運動 | ・体育祭に向け、仲間と協力して活動に取り組むことができる。<br>・記録の向上に向け、何が必要かを考え、行動することができる。                                                                                           |   | ○ | ○ | 8        |
|             | C 水泳<br>【知識及び技能】<br>水泳や水の特性を理解するとともに、基本的な泳法を身に付ける。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>自己の課題を見つけ、記録の向上のために必要なことを考え、行動することができる。                                                                                                                                   | ・平泳ぎ25mのタイム測定<br>・時間泳<br>・水泳や水の特性についての理解      | D 水泳     | ・安全に注意して、仲間と協力しながら活動に取り組むことができる。<br>・自己の課題を見つけ、記録の向上のために必要なことを考え、行動することができる。<br>・水泳や水の特性を理解することができる。                                                      | ○ | ○ | ○ | 14       |
| 2<br>学<br>期 | D バレーボール<br>【知識及び技能】<br>ゲームのルールや技術について理解するとともに、オーバーパス、アンダーパス等の基本的な動作を身に付ける。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>自己やチームの課題を見つけ、その解決に向けて練習方法等を工夫する力を身に付ける。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>仲間と教え合いながら、活動に主体的に取り組む態度を育む。                                                       | ・オーバーパス、アンダーパス<br>・ゲームのルールの理解                 | E 球技     | ・ゲームのルールや技術について理解するとともに、投げる、捕る、打つ等の基本的な動作を身に付けることができる。<br>・自己やチームの課題を見つけ、その解決に向けて練習方法等を工夫することができる。<br>・仲間と教え合いながら、活動に主体的に取り組むことができる。                      | ○ | ○ | ○ | 14       |
|             | E テニス<br>【知識及び技能】<br>状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができるようにする。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考え方を他者へ伝えることができるようにする。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>フェアなプレイを大切にしようとする態度を育成する。 | ・サービス<br>・ラリー<br>・シングルス、ダブルス<br>・ゲームのルールの理解   | E 球技     | ・サービスでは、ボールに変化をつけて打つことができる。<br>・課題解決の過程を踏まえて、チームや自己の新たな課題を発見している。<br>・危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保している。                                                   | ○ | ○ | ○ | 14       |
| 3<br>学<br>期 | G 体育理論<br>【知識及び技能】<br>運動の合理的・計画的な実践を通して、知識を深めるとともに運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>自己の状況によって体力の向上を図る能力を育てる。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。                                                      | ・スポーツの発症と発展<br>・運動・スポーツの学び方<br>・豊かなスポーツライフの設計 | H 体育理論   | ・スポーツの特徴、歴史、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。<br>・生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。<br>・運動の楽しさや喜びを味わいながら、学習に主体的に取り組もうとしている。 | ○ | ○ | ○ | 4        |
|             | H 長距離走<br>【知識及び技能】<br>ペースの変化に応じて走ったり、上下動が少なくリラックスしてリズムカルな走りをする力に身に付ける。                                                                                                                                                                            | ・距離走<br>・ペース走                                 |          | ・ペースの変化に応じて走ったり、上下動が少なくリラックスしてリズムカルな走りをすることができる。<br>・自己や仲間の課題を見つけ、その解決に向けて練習等を工夫することができる。                                                                 |   |   |   |          |

|                                                                                                                                          |        |                                        |   |   |   |   |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|----------------------------------------|---|---|---|---|
| <p>ける。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】<br/>自己や仲間の課題を見つけ、その解決に向けて練習等を工夫する力を身に付ける。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】<br/>陸上競技の楽しさや喜びを味わいながら、主体的に活動に取り組む能力を養う</p> | C 陸上競技 | ・陸上競技の楽しさや喜びを味わいながら、主体的に活動に取り組むことができる。 | ○ | ○ | ○ | 8 |
|                                                                                                                                          |        |                                        |   |   |   |   |
|                                                                                                                                          |        |                                        |   |   |   |   |
|                                                                                                                                          |        |                                        |   |   |   |   |
| 合計                                                                                                                                       |        |                                        |   |   |   |   |
| 70                                                                                                                                       |        |                                        |   |   |   |   |

年間授業計画

都立拝島高等学校 令和7年度（2 学年用）教科

保健体育

科目 保健

教科：保健体育

科目：保健

単位数：1 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 7 組

教科担当者：（1 組：吉川）（2 組：笹原・梅木）（3 組：笹原・梅木）（4 組：野口）

（5 組：笹原・梅木）（6 組：笹原・梅木）（7 組：野口）

使用教科書：（新高等保健体育 大修館書店）

教科 保健体育

の目標：

【知識及び技能】健康を保持増進するための管理の重要性和環境

【思考力、判断力、表現力等】生活の質の向上に向けた課題解決

【学びに向かう力、人間性等】健康の課題解決に向けた学習に主体的に取り組む態度

科目 保健

の目標：

| 【知識及び技能】                                                              | 【思考力、判断力、表現力等】                                                                | 【学びに向かう力、人間性等】                                                                                      |
|-----------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることを理解できるようにする。 | 生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを説明することができるようにする。 | 生涯を通じる健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、道筋を立てて説明するなどの学習活動に主体的に取り組むことができるようにする。 |

|             | 単元の具体的な指導目標                                                                                                                                                                                                                 | 指導項目・内容                                                                                  | 評価規準                                                                                                                                              | 知 | 思 | 態 | 配当<br>時数 |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|----------|
| 1<br>学<br>期 | A 思春期と健康<br>【知識及び技能】<br>思春期には、心身の発達に伴い健康課題が生じることなどについて理解し、内容をワークシートなどにまとめることができる。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>思春期と健康について、自他や社会の課題を発見し、内容をワークシートなどにまとめることができる。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>ペアワークやグループワークの中で積極的に発言し、思春期の健康について意見交換することができる。 | 教科書：新高等保健体育<br>使用教具：プリント、パワーポイント<br>学習形態：一斉学習、ペア・グループワーク<br>その他：一人一台端末の活用                | 【知識・技能】<br>思春期の心身の発達と健康課題への理解<br><br>【思考・判断・表現】<br>思春期の健康課題の対策についての考え<br><br>【主体的に学習に取り組む態度】<br>ペアワークやグループワークの中での発言や行動の積極性                        | ○ | ○ | ○ | 4        |
|             | B 性意識の変化と性行動の選択<br>【知識及び技能】<br>性意識の個人差について理解し、自分の行動への責任感や性のあり方の理解と尊重の必要性などを理解することができる。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>性に関する意思決定・行動選択には性情報への適切な対処が必要であることを理解できる。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>思春期における性に関する意思決定・行動選択の課題を発見し、その対策について考え行動する。     | 教科書：新高等保健体育<br>使用教具：プリント、パワーポイント<br>学習形態：一斉学習、ペア・グループワーク、Formsを用いたアンケート<br>その他：一人一台端末の活用 | 【知識・技能】<br>性意識の個人差・男女差についての理解<br><br>【思考・判断・表現】<br>性情報の取扱い・受け取り方についての考え<br><br>【主体的に学習に取り組む態度】<br>アンケートやペアワーク、グループワークへの取り組み状況                     | ○ | ○ | ○ | 4        |
|             | C 結婚生活と健康<br>【知識及び技能】<br>夫婦や親子の良好な関係を築き、安定した結婚生活を送るために必要な要因について理解できる。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>妊娠や出産、育児を含む結婚生活における健康課題を発見し、その対策について考えられる。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>安定した結婚生活を送るための要因や結婚生活における健康課題についてグループワークなどで発言することができる。           | 教科書：新高等保健体育<br>使用教具：プリント、パワーポイント<br>学習形態：一斉学習、ペア・グループワーク、Formsを用いたアンケート<br>その他：一人一台端末の活用 | 【知識・技能】<br>安定した結婚生活を送るために必要な要因についての理解<br><br>【思考・判断・表現】<br>結婚生活における健康課題とその対策についての考え<br><br>【主体的に学習に取り組む態度】<br>ペアワークやグループワークの中での発言や行動の積極性          | ○ | ○ | ○ | 3        |
|             | D 妊娠・出産と健康<br>【知識及び技能】<br>受精から出産までの過程をそれに伴う健康課題について理解できる。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>妊娠や出産の過程で起こり得る健康課題の対策について考えられる。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>妊娠・出産の過程で起こり得る健康課題について理解し、その対策についてグループワークなどで発言できる。                                      | 教科書：新高等保健体育<br>使用教具：プリント、パワーポイント<br>学習形態：一斉学習、ペア・グループワーク、Formsを用いたアンケート<br>その他：一人一台端末の活用 | 【知識・技能】<br>受精から出産までの過程とそれに伴う健康課題についての理解<br><br>【思考・判断・表現】<br>妊娠や出産の過程で起こり得る健康課題の対策についての考え<br><br>【主体的に学習に取り組む態度】<br>ペアワークやグループワークの中での発言や行動の積極性    | ○ | ○ | ○ | 2        |
|             | 定期考査                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                          |                                                                                                                                                   | ○ | ○ |   | 1        |
|             | A 家族計画<br>【知識及び技能】<br>家族計画の意義とその重要性について、また、避妊の方法についてきちんと理解できる。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>家族計画を立てる際に起こり得る健康課題について理解し、その対策についてグループワークなどで発言できる。<br>【主体的に学習に取り組む態度】<br>家族計画を立てる上での注意点や健康課題について理解し、そのことについてグループワークなどで発言できる。           | 教科書：新高等保健体育<br>使用教具：プリント、パワーポイント<br>学習形態：一斉学習、ペア・グループワーク、Formsを用いたアンケート<br>その他：一人一台端末の活用 | 【知識・技能】<br>家族計画の意義とその重要性について、避妊の方法についての理解<br><br>【思考・判断・表現】<br>家族計画を立てる際に起こり得る健康課題の対策についての考え<br><br>【主体的に学習に取り組む態度】<br>ペアワークやグループワークの中での発言や行動の積極性 | ○ | ○ | ○ | 4        |

| 単元の具体的な指導目標 |                                                                                                                                                                                                                                                       | 指導項目・内容                                                                                  | 評価規準                                                                                                                                                                   | 知 | 思 | 態 | 配当<br>時数 |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|----------|
| 2<br>学<br>期 | <b>B 加齢と健康、高齢社会に対応した取り組み</b><br><b>【知識及び技能】</b><br>加齢による心身の変化や高齢期の健康課題について理解できる。<br><b>【思考力、判断力、表現力等】</b><br>若者と高齢者が社会において交流し、お互いを理解する具体的な方法を考えることができる。<br><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b><br>加齢による心身の変化や高齢期の健康課題について理解し、グループワークなどで発言することができる。                 | 教科書：新高等保健体育<br>使用教具：プリント、パワーポイント<br>学習形態：一斉学習、ペア・グループワーク、Formsを用いたアンケート<br>その他：一人一台端末の活用 | <b>【知識・技能】</b><br>加齢による心身の変化や高齢期の健康課題についての理解<br><br><b>【思考・判断・表現】</b><br>若者と高齢者の交流についての考え<br><br><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b><br>ペアワークやグループワークの中での発言や行動の積極性                  | ○ | ○ | ○ | 4        |
|             | <b>C 働くことと健康</b><br><b>【知識及び技能】</b><br>働くことの意義と働き方の多様化について理解できる。<br><b>【思考力、判断力、表現力】</b><br>働き方が多様化している現代における働く人の健康課題について考えられる。<br><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b><br>働く人の健康課題について考え、グループワークなどで発言することができる。                                                     | 教科書：新高等保健体育<br>使用教具：プリント、パワーポイント<br>学習形態：一斉学習、ペア・グループワーク、Formsを用いたアンケート<br>その他：一人一台端末の活用 | <b>【知識・技能】</b><br>働く意義と働き方の多様化についての理解<br><br><b>【思考・判断・表現】</b><br>働く人の健康課題に関する考え<br><br><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b><br>ペアワークやグループワークの中での発言や行動の積極性                           | ○ | ○ | ○ | 4        |
|             | 定期考査                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                          |                                                                                                                                                                        | ○ | ○ |   | 1        |
|             |                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                          |                                                                                                                                                                        |   |   |   |          |
| 3<br>学<br>期 | <b>A 労働災害の防止、働く人の健康づくり</b><br><b>【知識及び技能】</b><br>労働災害の防止方法とメンタルヘルスケアが重要視されていることなどについて理解できる。<br><b>【思考力、判断力、表現力等】</b><br>労働災害防止のために必要な個人的・社会的対策について考えられる。また、働く人の生活の質向上について考えられる。<br><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b><br>労働災害防止方法や生活の質向上についてグループワークなどで発言することができる。 | 教科書：新高等保健体育<br>使用教具：プリント、パワーポイント<br>学習形態：一斉学習、ペア・グループワーク、Formsを用いたアンケート<br>その他：一人一台端末の活用 | <b>【知識・技能】</b><br>家族計画の意義とその重要性について、避妊の方法についての理解<br><br><b>【思考・判断・表現】</b><br>家族計画を立てる際に起こり得る健康課題の対策についての考え<br><br><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b><br>ペアワークやグループワークの中での発言や行動の積極性 | ○ | ○ | ○ | 3        |
|             | <b>B 環境と健康</b><br><b>【知識及び技能】</b><br>人間の生活や産業活動が公害を引き起こし、健康被害をもたらすことがあることを理解できる。<br><b>【思考力、判断力、表現力等】</b><br>地球規模の環境問題への個人と社会での対策を考えることができる。<br><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b><br>公害と環境問題について理解し、その対策についてグループワークなどで発言することができる。                                | 教科書：新高等保健体育<br>使用教具：プリント、パワーポイント<br>学習形態：一斉学習、ペア・グループワーク、Formsを用いたアンケート<br>その他：一人一台端末の活用 | <b>【知識・技能】</b><br>四大公害はじめとする公害問題と環境問題への理解<br><br><b>【思考・判断・表現】</b><br>環境問題への個人的・社会的な対策についての考え<br><br><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b><br>ペアワークやグループワークの中での発言や行動の積極性              | ○ | ○ | ○ | 3        |
|             | <b>C 健康被害を防ぐための環境対策</b><br><b>【知識及び技能】</b><br>環境汚染による健康被害の予防策について理解できる。<br><b>【思考力、判断力、表現力等】</b><br>環境汚染対策について考え評価することができる。<br><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b><br>環境汚染による健康被害の予防策について理解し、グループワークなどで発言することができる。                                                 | 教科書：新高等保健体育<br>使用教具：プリント、パワーポイント<br>学習形態：一斉学習、ペア・グループワーク、Formsを用いたアンケート<br>その他：一人一台端末の活用 | <b>【知識・技能】</b><br>環境汚染による健康被害の予防策への理解<br><br><b>【思考・判断・表現】</b><br>環境汚染対策に関する評価<br><br><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b><br>ペアワークやグループワークの中での発言や行動の積極性                             | ○ | ○ | ○ | 1        |
|             | 定期考査                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                          |                                                                                                                                                                        | ○ | ○ |   | 1        |
|             |                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                          |                                                                                                                                                                        |   |   |   | 合計       |
|             |                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                          |                                                                                                                                                                        |   |   |   | 35       |

合

|        |                                                                                              |  |   |   |   |                                                                             |   |   |   |    |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------|--|---|---|---|-----------------------------------------------------------------------------|---|---|---|----|
| 下<br>期 | 自らの役割を意識しながら表現を上天する。<br><b>【学びに向かう力、人間性等】</b><br>・グループまたはクラス内で互いの音や表現を尊重し話し合いながら、主体的に演奏を楽しむ。 |  | 〃 | 〃 | 〃 | <b>【学びに向かう力、人間性等】</b><br>・グループまたはクラス内で互いの音や表現を尊重し話し合いながら、主体的に演奏を楽しもうとしているか。 | 〃 | 〃 | 〃 | 70 |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------|--|---|---|---|-----------------------------------------------------------------------------|---|---|---|----|

年間授業計画

都立拝島 高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 芸術 科目 美術Ⅱ

教 科： 芸術 科 目： 美術Ⅱ 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2学年 1組～ 7組

教科担当者：（1・2組：高野雄生）（3・4組：高野雄生）（5・6組：高野雄生）（7組：高野雄生）

使用教科書：（ 高校生の美術Ⅱ ）

教科 芸術 の目標：芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知 識 及 び 技 能】芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるように

【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】学習を通して感性を高め、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 美術Ⅱ の目標：

| 【知識及び技能】                                                                          | 【思考力、判断力、表現力等】                                                                          | 【学びに向かう力、人間性等】                                                         |
|-----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|
| 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めること。<br>・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表すこと。 | 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすること。 | 美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとすること。多角的な視点を持ち、対象を観察する術を身に付けようとする。 |

|             | 単元の具体的な指導目標                                                                                                                                                                                                      | 指導項目・内容                                                                                                                      | 表現          |   |   | 鑑賞  | 評価規準                                                                                                                                                                       | 知 | 思 | 態 | 配<br>当<br>時<br>数 |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|---|---|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|------------------|
|             |                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                              | 絵<br>・<br>彫 | デ | 映 |     |                                                                                                                                                                            |   |   |   |                  |
| 1<br>学<br>期 | A 題材 映像メディア表現(コマ撮りアニメ)<br>【知識及び技能】<br>アニメーションについて学習し、自らの作品制作に生かす。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>アニメーションにおける表現方法や工夫などについて考え、見方や感じ方を深める。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>与えられたテーマについて身の回りの環境から主題を生成し、自ら進んで考えを深め、表現しようとする。              | ・指導事項<br>アニメーションにおける表現方法について<br>・教材<br>教科書、配布プリント、<br>・一人1台端末の活用 等                                                           |             |   |   | ○ ○ | 【知】アニメーションにおける表現方法を理解し、作品制作に生かすことができる。<br>【思】アニメーションという表現方法に対して自分自身の考えを持ちながら主題を生成し、構想を練っている。<br>【学】主体的に動画制作に参加し、作品制作及び鑑賞活動に取り組もうとしている。                                     | ○ | ○ | ○ | 4                |
|             | A 題材 表現 彫刻(現代アート)<br>【知識及び技能】<br>立体作品が周囲の空間に与える効果について理解する。 粘度を用いて立体作品を制作する。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>モデリングによる表現の特性を理解し、表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深める。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>現代社会の課題に対して自ら進んで調べ、作品に取り入れようとする。               | ・指導事項<br>現代アートにおける表現活動及び作品制作について<br>・教材<br>教科書、配布プリント、石粉粘土、粘土ペラ、彫刻刀、棒やすり、紙やすり<br>・一人1台端末の活用 等                                | ○           |   |   | ○ ○ | 【知】現代アートにおける表現活動の幅広さを理解し、作品制作に生かすことができる。<br>【思】現代アートに対して自分自身の考えを持ちながら主題を生成し、構想を練っている。<br>【学】現代社会の課題について理解を深め、作品制作及び鑑賞活動に取り組もうとしている。                                        | ○ | ○ | ○ | 12               |
|             | A 題材 表現 デザイン(アクリル絵の具を用いたポスターの制作)<br>【知識及び技能】<br>ポスターの持つ情報伝達機能について理解する。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>文化祭というキーワードからイメージを広げ、表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深める。<br>【学びに向かう力、人間性等】                                                     | ・指導事項<br>ポスターデザインにおける構図の効果について、アクリル絵の具を用いた表現技法について<br>・教材<br>教科書、配布プリント、アクリル絵具、筆記用具、イラストレーションボード<br>・一人1台端末の活用 等             |             | ○ |   | ○ ○ | 【知】ポスターの持つ機能を理解し、作品制作の中で応用することができる。アクリル絵の具を用いて作品を制作することができる。<br>【思】共通したテーマに対して自分自身の考えを持ちながら表現形式の特性を生かし、色彩、構成などについて考え、表現の構想を練っている。<br>【学】主体的にポスター制作における表現及び鑑賞活動に取り組もうとしている。 | ○ | ○ | ○ | 10               |
| 2<br>学<br>期 | A 題材 表現 デザイン(珪藻の形を取り入れた藍染作品の制作)<br>【知識及び技能】<br>デキスタイルについて解する。<br>日本の伝統的な藍染について理解する。板締め絞りをを行う。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>藍染の特性を理解し、デキスタイルにおける表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深める。<br>【学びに向かう力、人間性等】                               | ・指導事項<br>日本の伝統的な藍染め作品について、絞り染めの制作方法について<br>・教材<br>教科書、配布プリント、風呂敷、藍染め液、木材、輪ゴム、ビー玉、おはじき、クランプ、糸鋸、すり板、棒やすり、紙やすり、<br>・一人1台端末の活用 等 |             |   |   | ○ ○ | 【知】藍染めの持つ表現について理解し、作品制作の中で応用することができる。絞り染めを用いて作品を制作することができる。<br>【思】伝統的な藍染めに対して自分自身の考えを持ちながら造形表現の特性を生かし、構想を練っている。<br>【学】主体的に藍染めを用いた風呂敷の制作及び鑑賞活動に取り組もうとしている。                  | ○ | ○ | ○ | 12               |
|             | A 題材 デザイン(金属素材を用いたプロダクトデザイン)<br>【知識及び技能】<br>実用品のデザインに理解する。金属の加工方法について学習する。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>ブックという実用品について、表現方法及び実用品としての工夫などについて考え、見方や感じ方を深める。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>ブックとして使用できることを念頭に置きながら、より完成度の作品に仕上げようとする。 | ・指導事項<br>プロダクトデザインについて、金属を用いた造形方法について、<br>・教材<br>教科書、配布プリント、配布プリント、糸鋸、棒やすり、紙やすり、すり板、万力、エッチング液<br>・一人1台端末の活用 等                |             | ○ |   | ○ ○ | 【知】透かし彫りの持つ視覚効果を理解し、作品制作の中で応用することができる。切削工具を用いて作品を制作することができる。<br>【思】伝統的な木彫技法に対して自分自身の考えを持ちながら造形表現の特性を生かし、構想を練っている。<br>【学】主体的に透かし彫りを用いた木彫における制作及び鑑賞活動に取り組もうとしている。            | ○ | ○ | ○ | 14               |
|             | A 題材 映像メディア表現(ウォーキングアート)<br>【知識及び技能】<br>現代アートについて学習し、自らの作品制作に生かす。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>現代アートにおける表現方法や工夫                                                                                                          | ・指導事項<br>現代アートにおける表現方法について<br>・教材<br>教科書、配布プリント、カメラ、写真印刷用紙、<br>・一人1台端末の活用 等                                                  |             |   |   |     | 【知】写真及び動画における表現方法を理解し、作品制作に生かすことができる。<br>【思】写真及び動画という表現方法に対して自分自身の考えを持ちながら主題を生成し、構想を練っている。<br>【学】主体的に作品制作に参加し、作品制作及び鑑賞活動に取り組もうとしている。                                       |   |   |   | 18<br>合<br>計     |

|                                                                                                                |  |  |  |   |   |  |  |   |   |   |    |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|--|---|---|--|--|---|---|---|----|
| <p>などについて考え、見方や感じ方を深める。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>「歩くことと表現すること」について活動を通して考え、自ら主題を生成し、進んで考えを深め、表現しようとする。</p> |  |  |  | ○ | ○ |  |  | ○ | ○ | ○ | 70 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|--|---|---|--|--|---|---|---|----|

都立拝島 高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 芸術 科目 書道Ⅱ

教 科： 芸術 科 目： 書道Ⅱ 単位数： 2 単位

対象学年組：第 1 学年 1 組～ 6 組

教科担当者：（井口）

使用教科書：（書Ⅱ 光村書店）

教科 書道Ⅱ の目標：

- 【知識及び技能】 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書之美を味わい捉えたりすることができるようにする。
- 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

科目 書道Ⅱ の目標：

| 【知識及び技能】                                                | 【思考力、判断力、表現力等】                 | 【学びに向かう力、人間性等】                      |
|---------------------------------------------------------|--------------------------------|-------------------------------------|
| 書の幅広い表現や鑑賞の活動を通して、習得されたり活用されたりする知識と効果的に表現するための技能を身に付ける。 | 作品の構想と表現の工夫、鑑賞における思考、判断を身に付ける。 | 主体的に学習に取り組む態度、生涯にわたり書を愛好する心情を身に付ける。 |

|             | 単元の具体的な指導目標                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 指導項目・内容                                                                           | 表現     |   |   | 鑑賞 | 評価規準                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 知 | 思 | 態 | 配<br>当<br>時<br>数 |
|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|--------|---|---|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|------------------|
|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                   | 漢<br>仮 | 漢 | 仮 |    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |   |   |   |                  |
| 1<br>学<br>期 | A 書写から書道へ<br>【知識及び技能】用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解できる。用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解できる。日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、漢字の書体の変遷、書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解できる。<br>【思考力、判断力、表現力等】中学校書写で学んだ漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した効果的な表現形式、意図に基づいた表現について構想し工夫できる。漢字の書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えられる。<br>【学びに向かう力、人間性等】自身の表現の意図に基づく表現、漢字仮名交じりの表現の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。書のよさや美しさを甘受し、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習に取り組もうとしている。 | ・指導事項 書写で学んできたこと。用具・用材。漢字の書の成立と変遷。<br>・教材 教科書 書道道具<br>・一人1台端末の活用 等                | ○      | ○ | ○ | ○  | 【知識及び技能】共通事項 ※ 用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。・日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、漢字の書体の変遷、書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解している。<br><br>【思考力、判断力、表現力等】中学校書写で学んだ漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した効果的な表現形式、意図に基づいた表現について構想し工夫している。漢字の書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。<br><br>【学びに向かう力、人間性等】自身の表現の意図に基づく表現、漢字仮名交じりの表現の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。書のよさや美しさを甘受し、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習に取り組もうとしている。 | ○ | ○ | ○ | 4                |
|             | B 漢字の書 楷書<br>【知識及び技能】表現・楷書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解できる。鑑賞・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解できる。楷書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、楷書の古典の線質、字形や構成を生かした表現を身に付けられる。<br>【思考力、判断力、表現力等】楷書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し、工夫できる。楷書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えられる。<br>【学びに向かう力、人間性等】自身の表現の意図に基づく表現、楷書の表現の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組む。楷書のよさや美しさを甘受し、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習に取り組む。               | ・指導事項 古典に基づく学習。「篆書」、「隸書」、「草書」、「行書」、「楷書」を順番に書いていく。<br>・教材 教科書 書道道具<br>・一人1台端末の活用 等 |        | ○ |   | ○  | 【知識及び技能】共通事項 ※ 表現・楷書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。鑑賞・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解している。楷書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、楷書の古典の線質、字形や構成を生かした表現を身に付けている。<br><br>【思考力、判断力、表現力等】楷書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し、工夫している。楷書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。<br><br>【学びに向かう力、人間性等】自身の表現の意図に基づく表現、楷書の表現の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。楷書のよさや美しさを甘受し、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習に取り組もうとしている。     | ○ | ○ | ○ | 18               |

|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                |  |  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |  |  |  |    |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|--|--|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|--|----|
|             | <p>C 創作 表現の使い分け 鑑賞</p> <p>【知識及び技能】共通事項 ※ 用具・用材の特徴と表現効果との関わり、書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解できる。漢字の書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、古典の線質、字形や構成を生かした表現を身に付けられる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】漢字の書の古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成、意図に基づいた表現について構想し工夫することができる。漢字の書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えられる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】自身の表現の意図に基づく表現、漢字の書の表現の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組む。漢字の書のよさや美しさを甘受し、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習に取り組もうとできる。</p> | <p>・指導事項 古典を生かそう。書<br/>の美や風趣を味わおう。</p> <p>・教材 教科書 書道道具</p> <p>・一人1台端末の活用 等</p> |  |  | <p>【知識及び技能】共通事項 ※ 用具・用材の特徴と表現効果との関わり、書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解している。漢字の書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、古典の線質、字形や構成を生かした表現を身に付けている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】漢字の書の古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成、意図に基づいた表現について構想し工夫している。漢字の書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】自身の表現の意図に基づく表現、漢字の書の表現の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。漢字の書のよさや美しさを甘受し、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習に取り組もうとしている。</p> |  |  |  | 4  |
|             | <p>D 漢字の書 行書</p> <p>【知識及び技能】行書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解できる。線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解できる。行書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、古典の線質、字形や構成を生かした表現を身に付けられる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】行書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し、工夫できる。行書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えられる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】自身の表現の意図に基づく表現、行書の表現の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組める。行書のよさや美しさを甘受し、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習に取り組もうとすることができる。</p>                                           | <p>・指導事項 行書の特徴 「蘭亭序」「争坐位文稿」「風信帖」</p> <p>・教材 教科書 書道道具</p> <p>・一人1台端末の活用 等</p>   |  |  | <p>【知識及び技能】共通事項 ※ 行書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解している。行書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、古典の線質、字形や構成を生かした表現を身に付けている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】行書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し、工夫している。行書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】自身の表現の意図に基づく表現、行書の表現の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。行書のよさや美しさを甘受し、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習に取り組もうとしている。</p>                              |  |  |  | 16 |
| 2<br>学<br>期 | <p>E 創作 四字熟語 鑑賞</p> <p>【知識及び技能】共通事項 ※ 用具・用材の特徴と表現効果との関わり、書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解できる。漢字の書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、古典の線質、字形や構成を生かした表現を身に付けられる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】漢字の書の古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成、意図に基づいた表現について構想し工夫することができる。漢字の書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えられる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】自身の表現の意図に基づく表現、漢字の書の表現の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組む。漢字の書のよさや美しさを甘受し、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習に取り組もうとできる。</p>    | <p>・指導事項 古典を生かそう。書<br/>の美や風趣を味わおう。</p> <p>・教材 教科書 書道道具</p> <p>・一人1台端末の活用 等</p> |  |  | <p>【知識及び技能】共通事項 ※ 用具・用材の特徴と表現効果との関わり、書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解している。漢字の書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、古典の線質、字形や構成を生かした表現を身に付けている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】漢字の書の古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成、意図に基づいた表現について構想し工夫している。漢字の書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】自身の表現の意図に基づく表現、漢字の書の表現の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。漢字の書のよさや美しさを甘受し、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習に取り組もうとしている。</p> |  |  |  | 4  |

|         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                       |  |  |  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |  |  |  |                |
|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|--|--|--|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|--|----------------|
|         | <p>F 平仮名の単体</p> <p>【知識及び技能】用具・用材の特徴と表現効果との関わり、線質や書風と用筆・運筆との関わりについて理解できる。線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本の文字と書の伝統と文化、仮名の成立、書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解できる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】平仮名の成立を理解し特徴を捉えられる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】自身の表現の意図に基づく表現、仮名の書の表現の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組むことができる。</p>                                                                                                                                                                                                  | <p>・指導事項 仮名の成立</p> <p>・教材 教科書 書道道具</p> <p>・一人1台端末の活用 等</p>                            |  |  |  | <p>【知識及び技能】共通事項 ※ 用具・用材の特徴と表現効果との関わり、線質や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本の文字と書の伝統と文化、仮名の成立、書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解している。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】平仮名の成立を理解し特徴を捉えている。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】自身の表現の意図に基づく表現、仮名の書の表現の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。</p>                                                                                                                                                                                           |  |  |  | 8              |
|         | <p>G 書初め</p> <p>【知識及び技能】書初めの歴史的背景を知る。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】字形、構成等の要素と表現効果を理解できる。漢字と平仮名のバランスを考えられる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】明確な目標設定を立てられる。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | <p>・指導事項 書初め</p> <p>・教材 教科書 書道道具</p> <p>・一人1台端末の活用 等</p>                              |  |  |  | <p>【知識及び技能】共通事項 ※ 書初めの歴史的背景を知る。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】字形、構成等の要素と表現効果を理解している。漢字と平仮名のバランスを考えられる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】明確な目標設定を立てられる。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |  |  |  | 2              |
|         | <p>H 散らし書き</p> <p>【知識及び技能】用具・用材の特徴と表現効果との関わり、線質や書風と用筆・運筆との関わりについて理解できる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫できる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】自身の表現の意図に基づく表現、仮名の古典の表現の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組むことができる。</p>                                                                                                                                                                                                                                                       | <p>・指導事項 全体構成</p> <p>・教材 教科書 書道道具</p> <p>・一人1台端末の活用 等</p>                             |  |  |  | <p>【知識及び技能】共通事項 ※ 用具・用材の特徴と表現効果との関わり、線質や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】自身の表現の意図に基づく表現、仮名の古典の表現の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。</p>                                                                                                                                                                                                                                               |  |  |  | 4              |
| 3<br>学期 | <p>I 漢字仮名交じりの書 創作</p> <p>【知識及び技能】用具・用材の特徴と表現効果との関わり、名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解できる。線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。目的や用途に即した効果的な表現や、漢字と仮名の調和した線質による表現の技能を身に付けられる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現、名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫している。創造された作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えられる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】自身の表現の意図に基づく表現、漢字仮名交じりの書の表現の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。漢字仮名交じりの書のよさや美しさを甘受し、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習に取り組もうとしている。</p> | <p>・指導事項 漢字仮名交じりの書の変遷。表現を比べよう 表現の工夫。紙面構成。</p> <p>・教材 教科書 書道道具</p> <p>・一人1台端末の活用 等</p> |  |  |  | <p>【知識及び技能】共通事項 ※ 用具・用材の特徴と表現効果との関わり、名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解している。線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。目的や用途に即した効果的な表現や、漢字と仮名の調和した線質による表現の技能を身に付けている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現、名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫している。創造された作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】自身の表現の意図に基づく表現、漢字仮名交じりの書の表現の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。漢字仮名交じりの書のよさや美しさを甘受し、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習に取り組もうとしている。</p> |  |  |  | 10<br>合計<br>70 |

年間授業計画

都立拝島高等学校 令和7年度

外国語

科目

英語コミュニケーションⅡ

教科： 外国語 科目： 英語コミュニケーションⅡ 単位数： 4 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 7 組

教科担当者： (1組：R笠木、G笠木、豊田) (2組：R笠木、G笠木、藤野) (3組：R笠木、G豊田、藤野) (4組：R藤野、G豊田、笠木)

(5組：R藤野、G豊田、藤野) (6組：R藤野、G豊田、笠木) (7組：R山田、G藤野、豊田)

使用教科書： ( COMET English CommunicationⅡ (数研出版)、be English Grammar23 workbook (いいずな書店)、フレーズで英単語3000 (浜島書店) )

教科 外国語 の目標：

- 【知識及び技能】 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

科目 英語コミュニケーションⅡ の目標：

| 【知識及び技能】                                                                                         | 【思考力、判断力、表現力等】                                                                                                                 | 【学びに向かう力、人間性等】                                                                            |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 基礎的・基本的な外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。 | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、基礎的・基本的な話題について外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して基礎的な内容を適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。 | 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に基礎的・基本的な外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 |

|             | 単元の具体的な指導目標                                                                                                                                                                                     | 指導項目・内容                                                           | 領域 |   |          |          | 評価規準                                                                                   | 知 | 思 | 態 | 配<br>当<br>時<br>数 |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|----|---|----------|----------|----------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|------------------|
|             |                                                                                                                                                                                                 |                                                                   | 聞  | 読 | 話<br>〔や〕 | 話<br>〔発〕 |                                                                                        |   |   |   |                  |
| 1<br>学<br>期 | Lesson1 Places Worth Visiting<br>【知識及び技能】<br>人に行動を求める表現を理解させる。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>人に行動を求める表現を用いて、自分が住んでいる地域の特徴を相手に伝えられるようにする。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>DaikiとElaのメールのやりとりを通して自分の住んでいる地域の魅力を考えさせる。 | ・DaikiとElaのメールのやりとりを読む<br>・人に行動を求める表現を理解する<br>・自分の住んでいる地域の魅力を発表する | ○  | ○ | ○        |          | ・本文の内容を聞いて、概要を把握できる。<br>・本文を読んで、概要を把握できる。<br>・人に行動を求める表現を用いて、自分の住んでいる地域の魅力を発表することができる。 | ○ | ○ | ○ | 10               |
|             | Lesson2 Iwago Mitsuaki: Animal Photographer<br>【知識及び技能】<br>疑問詞+to不定詞の基本的事項を理解させる。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>疑問詞+to不定詞を用いて、自分の意見を伝えられるようにする。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>写真の魅力や岩合さんの生き方について<br>定期考査          | ・写真の魅力を知る<br>・疑問詞+to不定詞を理解する。<br>・将来の夢やなりたい職業についてやりとりする。          | ○  | ○ | ○        |          | ・本文の内容を聞いて、概要を把握できる。<br>・本文を読んで、概要を把握できる。<br>・自分の興味・関心があるものについて相手に伝え合うことができる。          | ○ | ○ | ○ | 10               |
|             | Lesson3 The Haka<br>【知識及び技能】<br>分詞を理解させる。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>分詞を用いて異文化を紹介できるようにする。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>異文化理解を深める。                                                                            | ・世界の文化（ハカ）について知る。<br>・分詞を理解する。<br>・世界の文化についてやりとりする。               | ○  | ○ | ○        |          | ・本文の内容を聞いて、概要を把握できる。<br>・本文を読んで、概要を把握できる。<br>・自分で調べた海外の文化について発表する。                     | ○ | ○ | ○ | 10               |
|             | Lesson4 Digital Detox<br>【知識及び技能】<br>if節・疑問詞節を理解させる。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>if節・疑問節を用いて自分の意見を相手に伝えられるようにする。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>デジタルデトックスの必要性を考えさせる。                                             | ・デジタルデトックスの効果を知る。<br>・不定詞を理解する。<br>・デジタルデトックスの必要性についてやりとりする。      | ○  | ○ | ○        |          | ・本文の内容を聞いて、概要を把握できる。<br>・本文を読んで、概要を把握できる。<br>・デジタルデトックスについて自分の意見を相手に伝え合うことができる。        | ○ | ○ | ○ | 10               |

[illegible]

|                                                                   |  |   |   |   |   |   |  |   |   |   |    |
|-------------------------------------------------------------------|--|---|---|---|---|---|--|---|---|---|----|
| 仮定法過去を用いて自分の希望や願望を紹介させる。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>日本の中小企業のすばらしさを学ばせる。 |  | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |  | ○ | ○ | ○ | 13 |
| 定期考査                                                              |  |   |   |   |   |   |  | ○ | ○ |   | 1  |



都立栞島 高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 情報 科目 情報Ⅰ

教 科： 情報 科 目： 情報Ⅰ 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 7 組

教科担当者： （全組：石原）

使用教科書： （ 情報Ⅰ Step Forward! ）

教科 情報 の目標：

【知識及び技能】 情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けるとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解する。

【思考力、判断力、表現力等】 事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いる。

【学びに向かう力、人間性等】 情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとする。

科目 情報Ⅰ の目標：

| 【知識及び技能】                                                  | 【思考力、判断力、表現力等】                                         | 【学びに向かう力、人間性等】                                                  |
|-----------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| 事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決するための知識と技術をそなえ、適切かつ効果的に用いている。 | 事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。 | 情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。 |

|             | 単元の具体的な指導目標                                                                                                                                                                                                                                             | 指導項目・内容                                                                                                                                                                                                     | 評価規準                                                                                                 | 知 | 思 | 態 | 配<br>当<br>時<br>数 |
|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|------------------|
| 1<br>学<br>期 | 第1章 情報社会<br>【知識及び技能】<br>情報社会の現状や、特性、モラルなどについて知識を身につけ、理解する。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>様々な情報技術について理解し、課題解決の方法をについて考える。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>単元内容について小テストに対する取り組み姿勢を養う。                                                                                         | 1. 情報とその特性<br>2. メディアとその特性<br>3. 問題を解決する方法<br>4. 情報の収集とその分析<br>5. 解決方法の考案<br>6. 知的財産<br>7. 個人情報<br>8. 情報セキュリティ<br>9. 情報モラルと個人の責任<br>10. 情報技術の進歩と役割<br>11. 情報技術が社会に与える光と影                                    | 【知識・技能】<br>各内容について説明することができる。<br>【思考・判断・表現】<br>例や改善方法などを挙げることができる。<br>【主体的に学習に取り組む態度】<br>小テストの取り組み状況 | ○ | ○ | ○ | 13               |
|             | 第2章 情報デザイン<br>【知識及び技能】<br>メディアに関する知識と、インターネットを活用したコミュニケーション、情報のデザインについて理解する。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>様々な情報技術について理解し、課題解決の方法をについて考える。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>単元内容について小テストに対する取り組み姿勢を養う。                                                                       | 12. コミュニケーションとメディア<br>13. 情報のデジタル化<br>14. 数値の表現<br>15. 2進法の計算<br>16. 文字のデジタル表現                                                                                                                              | 【知識・技能】<br>各内容について説明することができる。<br>【思考・判断・表現】<br>例や改善方法などを挙げることができる。<br>【主体的に学習に取り組む態度】<br>小テストの取り組み状況 | ○ | ○ | ○ | 13               |
|             | 定期考査                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                      | ○ | ○ |   | 1                |
|             | 第2章 情報デザイン<br>【知識及び技能】<br>メディアに関する知識と、インターネットを活用したコミュニケーション、情報のデザインについて理解する。<br>Webページを作成できるようになる。                                                                                                                                                      | 17. 音のデジタル表現<br>18. 画像のデジタル表現<br>19. データの圧縮<br>20. デジタルデータの特徴<br>21. メディアと文化の発展<br>22. ネットコミュニケーションの特徴<br>23. 情報デザイン<br>24. 操作性の向上と情報技術<br>25. 全ての人に伝わるデザイン<br>26. コンテンツ設計                                  | 【知識・技能】<br>各内容について説明することができる。<br>【思考・判断・表現】<br>例や改善方法などを挙げることができる。<br>【主体的に学習に取り組む態度】<br>小テストの取り組み状況 | ○ | ○ | ○ | 14               |
| 2<br>学<br>期 | 第3章 プログラミング<br>【知識及び技能】<br>アルゴリズムを用いてプログラムを表現する方法を理解する。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>変数や関数を使用したプログラムを作成する。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>単元内容について小テストに対する取り組み姿勢を養う。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>様々な情報技術について理解し、課題解決の方法をについて考える。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>単元内容について小テストに対する取り組み姿勢を養う。 | 27. コンピュータの構成<br>28. ソフトウェア<br>29. 処理の仕組み<br>30. 論理回路<br>31. アルゴリズムの表現<br>32. アルゴリズムの効率性<br>33. プログラムの仕組み<br>34. プログラミング入門<br>35. プログラムの応用<br>36. 問題のモデル化<br>37. モデル化の活用<br>38. シミュレーション<br>39. シミュレーションの活用 | 【知識・技能】<br>各内容について説明することができる。<br>【思考・判断・表現】<br>例や改善方法などを挙げることができる。<br>【主体的に学習に取り組む態度】<br>小テストの取り組み状況 | ○ | ○ | ○ | 13               |
|             | 定期考査                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                      | ○ | ○ |   | 1                |
|             | 第4章 ネットワークの活用                                                                                                                                                                                                                                           | 40. 情報通信ネットワーク<br>41. デジタル通信の仕組み<br>42. インターネットの利用<br>43. 安全安心を守る仕組み<br>44. 情報システム<br>45. さまざまな情報システム<br>46. 情報システムの信頼性                                                                                     | 【知識・技能】<br>各内容について説明することができる。<br>【思考・判断・表現】<br>例や改善方法などを挙げることができる。<br>【主体的に学習に取り組む態度】<br>小テストの取り組み状況 |   |   |   | 14               |

|             |      |                   |  |  |  |  |    |
|-------------|------|-------------------|--|--|--|--|----|
| 3<br>学<br>期 |      | 47. データの活用とデータベース |  |  |  |  | 12 |
|             |      | 48. データの管理        |  |  |  |  |    |
|             |      | 49. データの収集と種類     |  |  |  |  |    |
|             |      | 50. データの分析        |  |  |  |  |    |
|             |      | 51. 不確実な事象の解決     |  |  |  |  |    |
|             |      | 52. 2つのデータの関係     |  |  |  |  |    |
|             | 定期考査 |                   |  |  |  |  | 1  |
|             |      |                   |  |  |  |  | 合計 |
|             |      |                   |  |  |  |  | 70 |

|             | 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容                                                    |  |  |  |  | 評価規準                | 知 | 思 | 態 | 配<br>当<br>時<br>数 |
|-------------|-------------|------------------------------------------------------------|--|--|--|--|---------------------|---|---|---|------------------|
| 1<br>学<br>期 | 遠足事前指導      | ・遠足についての事前学習                                               |  |  |  |  | ・活動に対し主体的に取り組んでいるか。 |   |   | ○ | 3                |
|             | 体育祭練習       | ・体育祭の意義を理解する。<br>・集団行動、協調性とは何かを理解する。<br>・自己の役割と責任について理解する。 |  |  |  |  | ・活動に対し主体的に取り組んでいるか。 |   |   | ○ | 5                |
|             | 清流祭企画準備     | ・文化行事の意義を知る。<br>・集団行動、協調性の大切さを理解する。<br>・自己の役割と責任について理解する。  |  |  |  |  | ・活動に対し主体的に取り組んでいるか。 |   |   | ○ | 8                |
|             | 修学旅行事前学習    | 沖縄の歴史・文化・海について理解する。                                        |  |  |  |  | ・活動に対し主体的に取り組んでいるか。 | ○ | ○ | ○ | 2                |
| 2<br>学<br>期 | 清流祭企画準備     | ・文化行事の意義を知る。<br>・集団行動、協調性の大切さを理解する。<br>・自己の役割と責任について理解する。  |  |  |  |  | ・活動に対し主体的に取り組んでいるか。 |   |   | ○ | 3                |
|             | 進路学習        | 志望理由書の準備と練習<br>面接練習                                        |  |  |  |  | ・活動に対し主体的に取り組んでいるか。 |   |   | ○ | 4                |
|             | 修学旅行事前学習    | 沖縄の歴史・文化・海について理解する。                                        |  |  |  |  | ・活動に対し主体的に取り組んでいるか。 |   |   | ○ | 5                |
| 3<br>学<br>期 | 進路学習        | 志望理由書の準備と練習<br>面接練習                                        |  |  |  |  | ・活動に対し主体的に取り組んでいるか。 |   |   | ○ | 5                |

[illegible]